

第IV章 再生基本計画

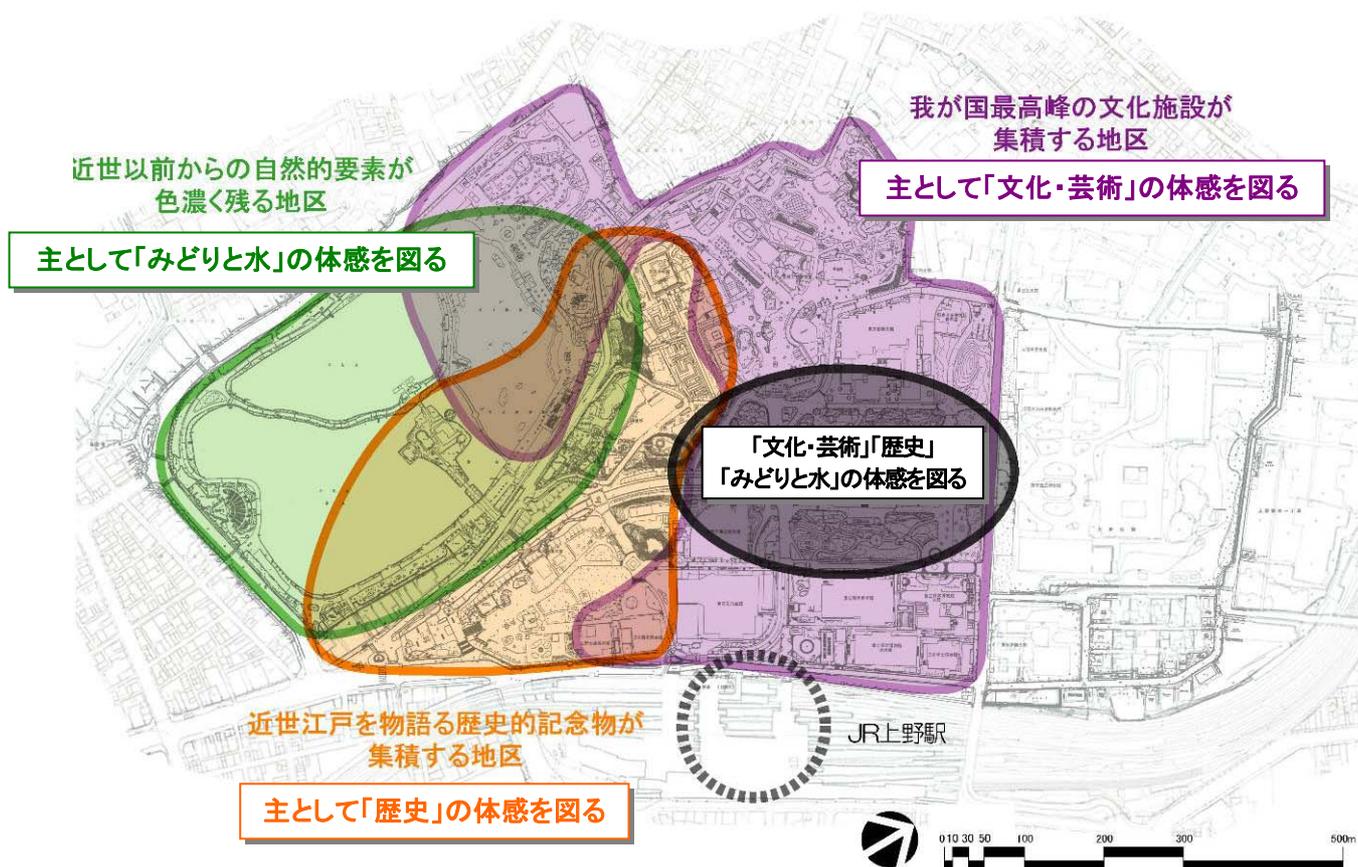
1. 土地利用計画

(1) 土地利用の考え方

基本方針を展開するにあたり、計画地が有する特性を有効に活用した土地利用を図るため、ゾーニングを行う。ゾーニングは、「上野公園グランドデザイン検討会報告書」で設定したゾーンとエリア、及び主軸の考え方に基づいている。

(2) ゾーンの設定

ゾーン等の考え方の整理にあたっては、「第Ⅱ章－2. 現況把握」で整理を行った現況の特性を踏まえ、各場所において、積極的に導入を図る機能（「第Ⅲ章－(4) 導入機能」より）を以下のとおりに設定した。



図：現況特性と導入する機能のイメージ

①ゾーン

各ゾーンの考え方は以下のとおりである。

名称	ゾーンの考え方
上野の山ゾーン	○公園のみどりの中に歴史資源や文化施設が溶け込み、「文化の森」にふさわしい空間が形成されているとともに、文化施設や大学等関係機関の連携により、魅力のある多様な文化を世界に向けて発信するゾーン。
不忍池ゾーン	○下町文化を守り伝える活動と休息や散策を楽しめる場とともに、不忍池から見た上野の山の良好な景観形成を図るゾーン。

②エリア

各エリアの考え方は以下のとおりである。

名称	エリアの考え方
A. 竹の台・文化施設エリア	○魅力のある多様な文化イベントの開催が可能な「文化の森」の中核となる広場を創出する。 ○明るい樹林地や広場などの屋外空間で気軽に飲食を楽しむことができる場とする。 ○東京都美術館の出入口の新設やアプローチの改善、恩賜上野動物園の魅力を高める正門周辺の整備等により、文化施設と公園との一体感を創出する。
B. JR上野駅公園口周辺エリア	○上野駅公園口からの安全で円滑な歩行者動線を確保し、「文化の森」にふさわしい入口広場とする。 ○周辺施設と一体となった魅力的なプロムナードを形成する。
C. 寛永寺など歴史資源エリア	○寛永寺清水堂や旧寛永寺五重塔等の文化財、上野の歴史を伝える記念碑等を適切に保存する。 ○江戸図絵等に描かれた寛永寺清水堂から不忍池方面への眺望景観を再現する。 ○不忍池畔や弁天堂から見た寛永寺清水堂や上野の山等魅力ある眺望景観を再現する。
D. 桜ヶ丘エリア	○上野の山で初めて江戸庶民に開放された花見の場所であり、多種の桜が楽しめる花見の場として復活させる。
E. 袴腰エリア	○上野の山とまちとの重要な結節点としてふさわしい風格ある入口広場とする。
F. 不忍池エリア	○不忍池畔で休息や散策を楽しめる園路や広場を設ける。 ○蓮見を楽しめる親水性を高めた池畔とともに、蓮の生育環境や水質の改善を図る。

③主軸

各主軸の考え方は以下のとおりである。

名称	主軸の考え方
① 袴腰と東京国立博物館を結ぶ軸	○ 桜並木の更新を図るとともに、竹の台広場から見る東京国立博物館本館のビスタを形成し、より魅力のある景観の形成を図る。
② JR 上野駅公園口と恩賜上野動物園を結ぶ軸	○ JR 上野駅からの来訪者を上野公園の中核である竹の台広場や各文化施設にスムーズに誘導するとともに、周辺施設と一体となった魅力的な景観をもつプロムナードの形成を図る。
③ 寛永寺清水堂と弁天堂を結ぶ軸	○ 寛永寺清水堂と弁天堂を結ぶ軸線を中心として、歴史的な景観の再現を図る。



■ゾーン

- 1 上野の山ゾーン
- 2 不忍池ゾーン

■エリア

- A 竹の台・文化施設エリア
- B JR 上野駅公園口周辺エリア
- C 寛永寺清水堂など歴史資源エリア
- D 桜ヶ丘エリア
- E 袴腰エリア
- F 不忍池エリア

■主軸

- ① 袴腰と東京国立博物館を結ぶ軸
- ② JR 上野駅公園口と恩賜上野動物園正門を結ぶ軸
- ③ 寛永寺清水堂と弁天堂を結ぶ軸

図：ゾーニング計画図

(3) 動線計画

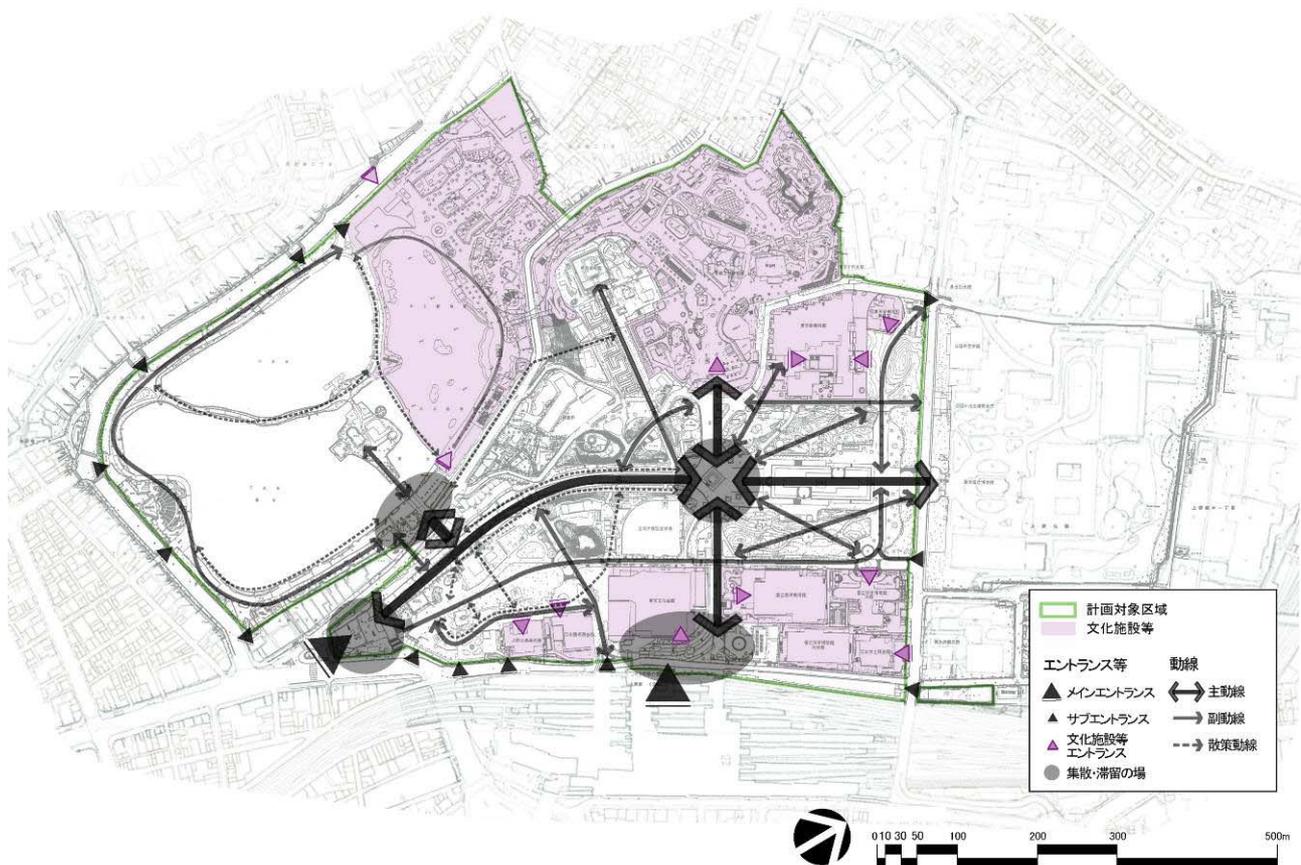
周辺地域からのアクセス状況や歴史性等を踏まえてエントランスの設定を行うとともに、計画対象区域内を効果的に繋ぐ動線を設定する。

① エントランス

- a. メインエントランス : ・ 鉄道駅に直結し、多くの来園者に利用されている「**JR 上野駅公園口前**」
・ 近世には、上野の山（寛永寺）の主入口であり、現在でも多くの来園者に利用されている「**袴腰**」
- b. サブエントランス : ・ 上記以外の公園境界部で、周辺地域との連続性を確保できる場所（東京藝術大学方面、不忍池畔各所 等）

② 動線

- a. 主動線 : ・ **メインエントランスと竹の台（及び東京国立博物館、恩賜上野動物園正門）を繋ぐ動線**
・ **上野の山と不忍池を繋ぐ動線**
- b. 副動線 : ・ サブエントランスと主動線を繋ぐ動線
・ 主動線から文化施設等のエントランスを繋ぐ動線
- c. 散策動線 : ・ 歴史、水とみどりの魅力を楽しみながら散策できる動線



(4) 導入施設

各ゾーン・エリアにおける考え方を整理した上で、エリア別整備方針、整備の方向性を整理し、導入施設（整備内容）の抽出を行った。



図：導入施設

2. 平面計画

「1. 土地利用計画」を踏まえ、平面計画を行う。平面計画にあたっては、「1－(4) 導入施設」で設定した施設の配置の考え方を整理する。

(1) 施設配置の考え方

基本方針で定めた考え方を、敷地条件や快適な利用イメージを考慮し、施設配置の考え方を以下のとおりに整理する。

① 公園と文化施設等との一体感を創出する施設配置

ゾーン・エリアの特性や主軸を活かすとともに、水とみどりや文化施設等との調和により、一体感を創出し、象徴的、美しい景観を形成できる施設配置を行う。

② 歴史性を踏まえた施設配置

近世、近代等、往時の利用形態や記念物等の立地状況を踏まえ、効果的に歴史性を演出できるような施設配置を行う。

③ 水とみどりの魅力を効果的に楽しめる施設配置

明るい樹林、広がりのある水面と水辺等、水とみどりに包まれた空間を活かして、様々な文化活動や飲食等のサービスを効果的に提供できる施設配置を行う。

④ 効果的にサービス提供ができる施設配置

来園者の利用を踏まえ、多くの人に飲食、情報提供等の利用サービスを効果的に提供できる施設配置を行う。

⑤ 円滑な利用動線を効果的に確保できる施設配置

地形による高低差を解消し、円滑な利用動線が確保できるよう、公園内及び公園近接地における他の施設の整備との連携を視野に入れた、施設配置を行う。

⑥ 緊急時の利用に配慮した施設配置

震災等の緊急時における、避難活動、救出・救助活動等を効果的に実施できる施設配置を行う。

(2) 平面計画図

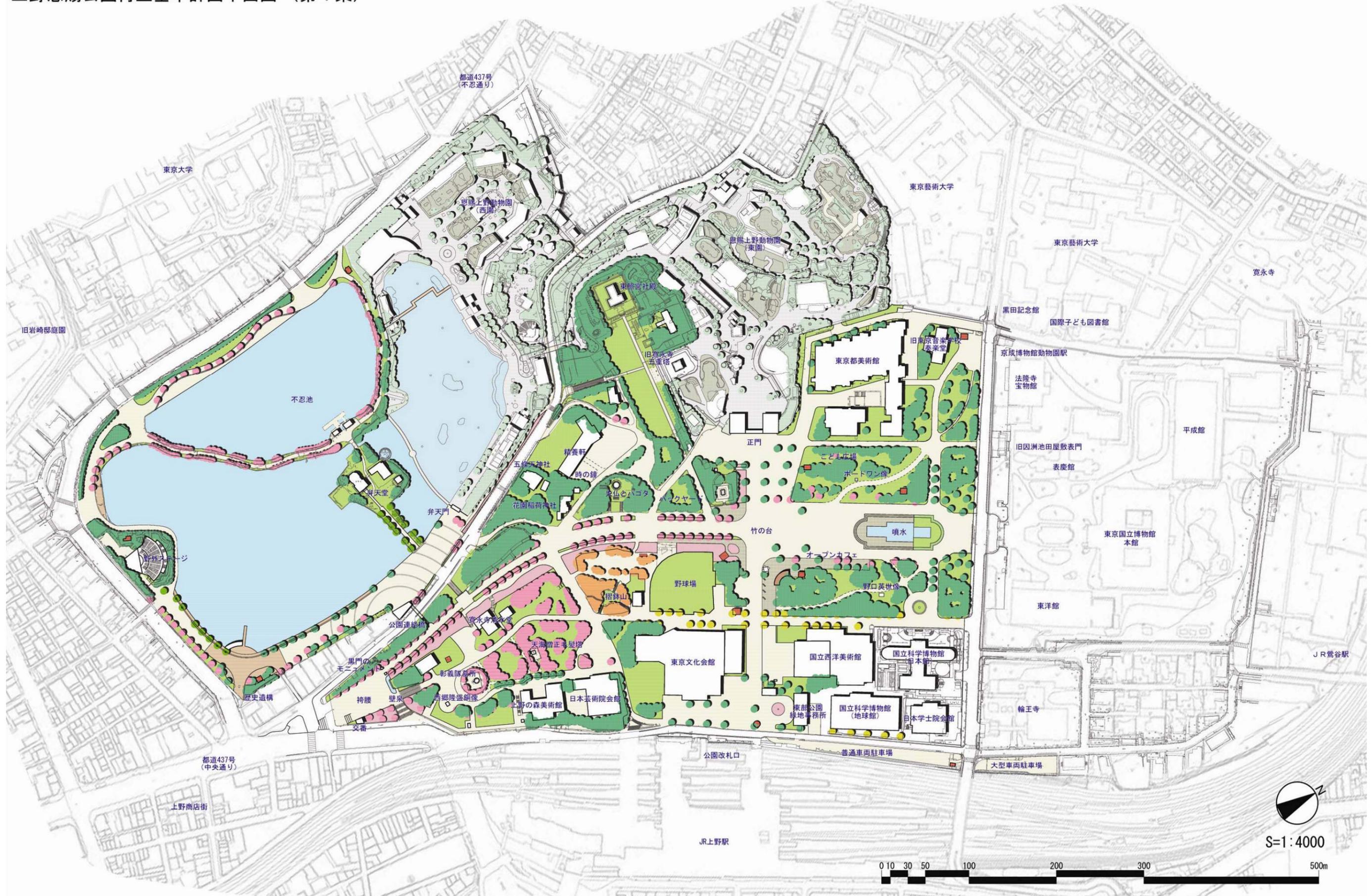
施設配置の考え方を踏まえて行った平面計画図は次ページのとおりである。

なお、平面計画図は、条件の相違により、第1案、第2案の作成を行った。その内容は以下の表に整理する。

表：第1案と第2案の相違

エリア	評価	第1案	評価	第2案	最終案
A. 竹の台・文化施設エリア		・ 「文化の森」の中核となる広場一帯については、55 ページの比較表により、第3案に統一する。			第1案を最終案とする
	サービス施設の導入	・ オープンカフェ利用の拠点となる建物を整備する。		・ 公園案内所と売店を併設して、オープンカフェの拠点とする。	
		○ 公園の中央部に位置し、多くの人の目につきやすい立地となる。	◎	売店を併設しているため、多様な飲食の要望に応えることができる。	
◎ 第2案よりも建物の規模が小さくなり、整備費を少なくできる。		△	公園案内所を併設しているため、集客効果が期待できる。 建築物の規模が大きくなり、整備費が高くなる。		
B. JR上野駅公園口周辺エリア		・ 公園案内所、売店、便所の配置は、現状のとおりとする。		・ 公園案内所と売店を、「文化の森」の中核となる大広場へ移設する。	
	◎	公園の入口で、JR 上野駅公園口を利用する来園者に、公園案内と売店利用のサービスを提供できる。	◎	公園の中央で、多方向からの来園者に公園案内と売店利用のサービスを提供できる。	
	○	現状の建物を引き続き使用するため、整備の負担が少ない。	△	建物の撤去に係る費用が必要となる。	
	△	JR 上野駅公園口方面から、世界遺産登録候補となっている国立西洋美術館本館への眺望を、公園案内所、売店、便所が阻害する。	○	JR 上野駅公園口方面から、世界遺産登録候補となっている国立西洋美術館本館への眺望が得られる。	
C. 寛永寺清水堂など歴史資源エリア		・ 樹木の整理を行い、上野の歴史を伝える記念碑等への見通しと、寛永寺清水堂から弁天堂と不忍池への眺望を確保する。		・ 第1案のとおりとする。	
D. 桜ヶ丘エリア		・ 多種の桜を楽しむことができる花見の場として復活させる。(桜の植栽、樹勢回復)		・ 第1案のとおりとする。	
E. 袴腰エリア		・ 風格ある入口広場とする。(黒門のモニュメント、壁泉の整備)		・ 第1案のとおりとする。	
F. 不忍池エリア		・ 既存の護岸の位置を変えずに池沿いに散策路を整備する。		・ 既存の護岸の池側に新たに、デッキを整備する。	
	下町文化を楽しむ池畔の整備	○	現在の蓮池の広がりを受け継ぐ。	×	現在よりも、蓮池の水面が狭くなる。
		△	親水性は、現況より高い。	○	水域に張り出しているため、親水性と共に、開放感が高い。
		○	陸域のみの工事となる。	△	第1案に比べて水域の工事部分が増額となる。
総合評価	◎	公園の入口で、公園サービスを提供するため、来園者にわかりやすい。新たに整備する建物は、オープンカフェの拠点となる建物のみであり、整備費が少ない。	○	公園の中央に公園サービス機能を集約することにより、公園施設相互の利便性が高まる。	

上野恩賜公園再生基本計画平面図（第1案）



図：再生基本計画平面図(第1案)

上野恩賜公園再生基本計画平面図 (第2案)

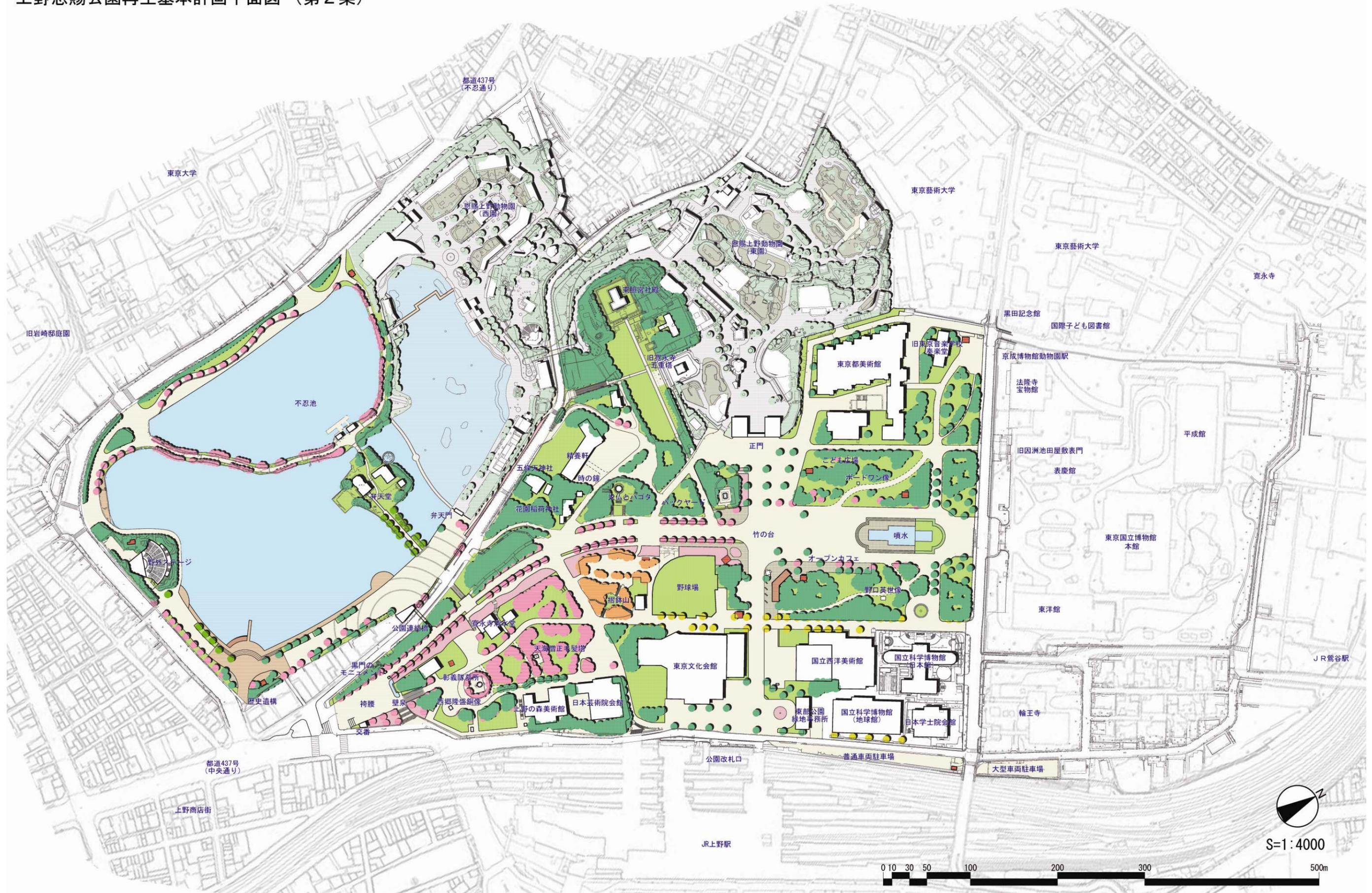


図:再生基本計画平面図(第2案)

3. 景観計画

「上野公園グランドデザイン検討会報告書」に示された考え方を踏まえ、本再生計画における景観計画の考え方を以下のとおりに設定する。

(1) 景観計画の考え方

「上野公園グランドデザイン検討会報告書」に示された景観に係る考え方は以下のとおりである。

○文化施設と公園の一体感の創出

文化施設の敷地境界部を改善するなど魅力ある空間づくりを進め、文化施設と公園が一体となった空間を創出する。

- 各文化施設の敷地境界部にあるフェンスや塀等の改善策を検討

○歴史資源の保存と活用

寛永寺清水堂、旧寛永寺五重塔等の文化財、文化的価値を有する明治以降の建造物、上野の歴史を伝える記念碑等を適切に保存・活用し、良好な状態で利用者に公開する。

- 動物園内の旧寛永寺五重塔が園外からも良く見えるようにするとともに、積極的にPR 等

○公園内の景観の向上と公園と調和した周辺景観の形成

文化施設と公園の連携により、公園内の景観の向上を図るほか、まちから見た上野の山への眺望や上野公園から見た街並み景観の向上等を図る。

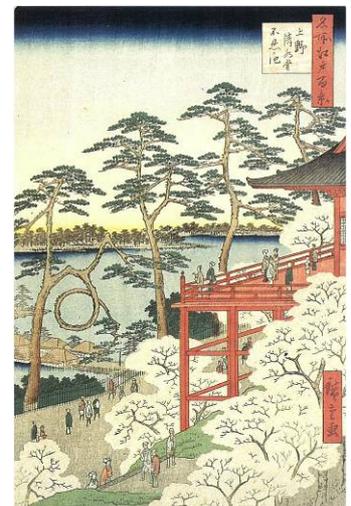
○歴史性を活かした魅力ある景観の再現と創出

上野公園の歴史性を感じることができる眺望点等を設定し、上野の山、不忍池、袴腰等において歴史的景観の再現や魅力的な景観を創出する。

- 支障木の整理等による江戸図絵等に描かれた寛永寺清水堂から不忍池方面への眺望景観の再現
- 不忍池畔や弁天堂から見た寛永寺清水堂や上野の山等魅力ある景観を眺望できる小広場の整備 等



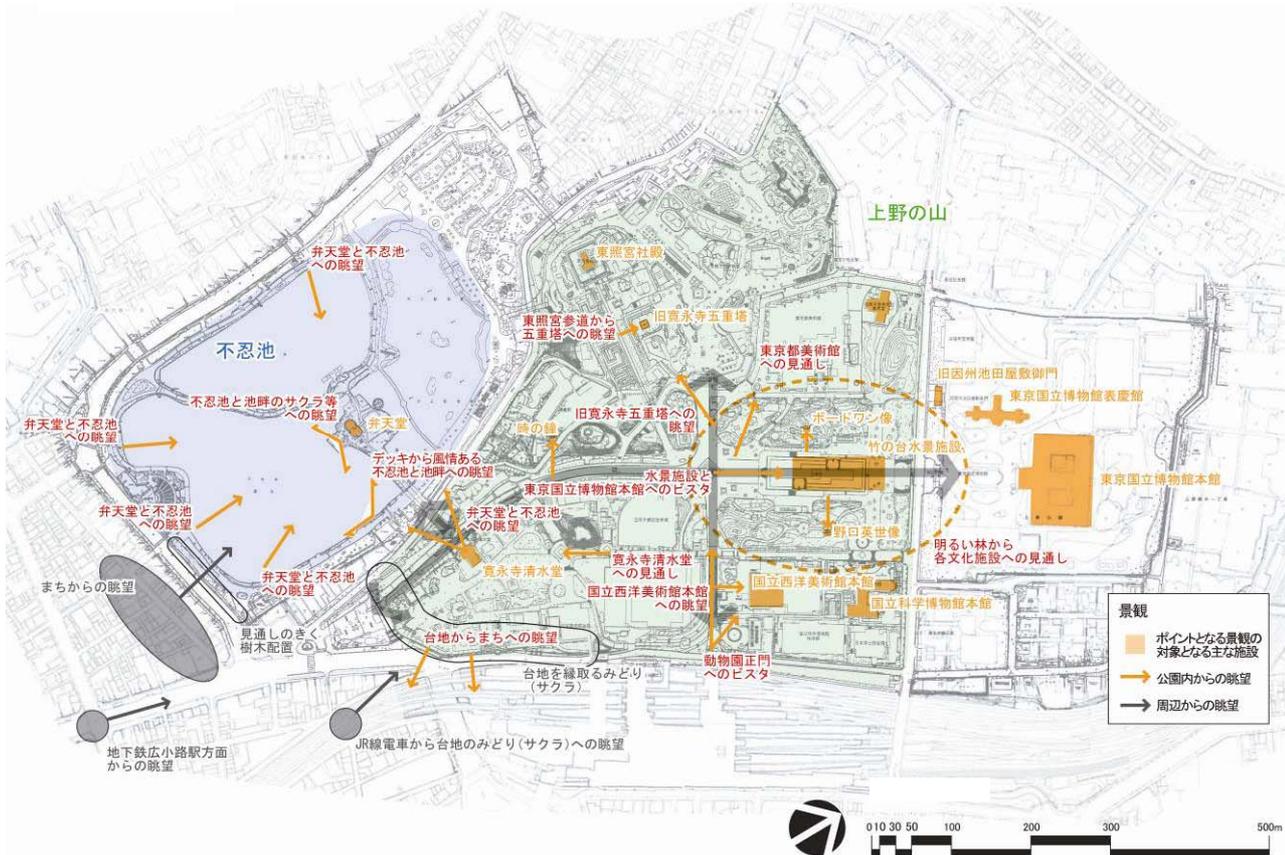
江戸時代の不忍池と上野の山の景観
(「東叡山麓不忍池弁財天図」)



江戸時代の寛永清水堂から不忍池への景観
(歌川広重画「名所江戸百景 上野清水堂不忍池」)

上記の内容を踏まえ、本再生計画における景観計画の考え方を以下のとおりに整理する。

- 主軸等を活かし、文化施設・歴史的記念物への見通しを得られる景観の創出
- 上野の山と不忍池の景観を楽しむための多様な眺望地点の確保
- 周辺地域から不忍池への眺望の確保とランドマークとなる上野の山の景観創出



図：景観計画の考え方の概念図

4. 造成計画

本再生計画における造成計画の考え方を以下のとおりに設定する。

- 大きな地形改変は行わない。

計画地の特性である上野の山と不忍池が広がる低地により形成される地形については、大きな改変は行わないものとし、施設の整備に伴う小規模な地形改変は行うものとする。

- 【地形改変が想定される整備】
- ・ 広場・園路の再配置
 - ・ 水景施設の改修 等

5. 主要施設計画

主要施設については、「第IV章-1-(4) 導入施設」で整理した導入施設を中心として、整備の考え方を設定する。なお、整理にあたっては、エリア毎に整備内容を整理した上で、その後、各エリアに共通する便益施設等の整備内容を整理する。

(1) 竹の台・文化施設エリア

竹の台・文化施設エリアについては、エリアを特徴づける施設である「**文化の森**」の中核となる**大広場**を中心として導入施設の内容を整理する。

①前提条件

『文化の森』の中核となる大広場に係る内容については、上野公園グランドデザインの検討時に、以下のような課題が挙げられていた。

<上野公園グランドデザイン検討時に挙げられた課題>

- 噴水が歩行者動線を分断している。
- 鬱蒼とした樹林地により文化施設の存在がわかりにくい。
- 「文化の森」を世界に発信していくイベント等が開催するに足る広場がない。
- ゆっくり落ち着いて休憩や食事等を楽しめない。

また、上野公園グランドデザインの中間報告後に実施した都民意見の募集やアンケート調査の結果から、「噴水を残すべき」、「今の噴水と東京国立博物館の景観は思い出もあり壊して欲しくない」など、**既存の噴水の存続を求める声**が数多く寄せられた。

②整備の方向性

「上野公園グランドデザイン検討会報告書」を踏まえた、竹の台・文化施設エリアの整備の方向性は以下のとおりである。

<整備の方向性>

- 「文化の森」の中核となる大広場の創出
 - ・ 多様な文化イベントを開催できる広場
 - ・ 東京国立博物館へのビスタの形成
 - ・ 憩い・安らぐことのできる、広場や大木中心の明るい林
 - ・ 来訪者が気軽にくつろぎ楽しめるオープンカフェ等
 - ・ 動線の結節点に相応しい広場
 - ・ 水景施設の整備

次ページに続く

○ 動物園の魅力を高める正門周辺の整備

- ・ 存在感のあるエントランス
- ・ 来訪者に園内の情報発信、国内外の諸施設との交流や連携を図る機能の充実

○ 東京都美術館の改修と連携した周辺整備

- ・ 来訪者の誰もが利用できる館内のレストラン・カフェの拡充
- ・ 北側出入口の新設
- ・ アプローチの改善

③比較検討

噴水、樹林が分布する竹の台一帯については、文化・芸術、歴史、水とみどり等様々な特性を有する地区であることから、「第Ⅲ章 計画方針の設定」で整理した「文化・芸術の体感」「歴史の体感」「水とみどりの体感」等、多様な機能の導入が求められる。

このことから、竹の台一帯は、多様な機能を充足しつつ、公園の中核的な特徴あるエリアとしていくため、強調する機能により土地利用形態が大きく異なることに着目し、求められる機能の中でも、特に強調する機能によって比較検討を行う。

また、比較にあたっては、「上野公園ランドデザイン検討会報告書」の考え方のもと、既存施設や既存樹林等について評価した上で、リニューアルの印象づけの効果についても検討する。

比較検討の整理は、以下のとおりである。

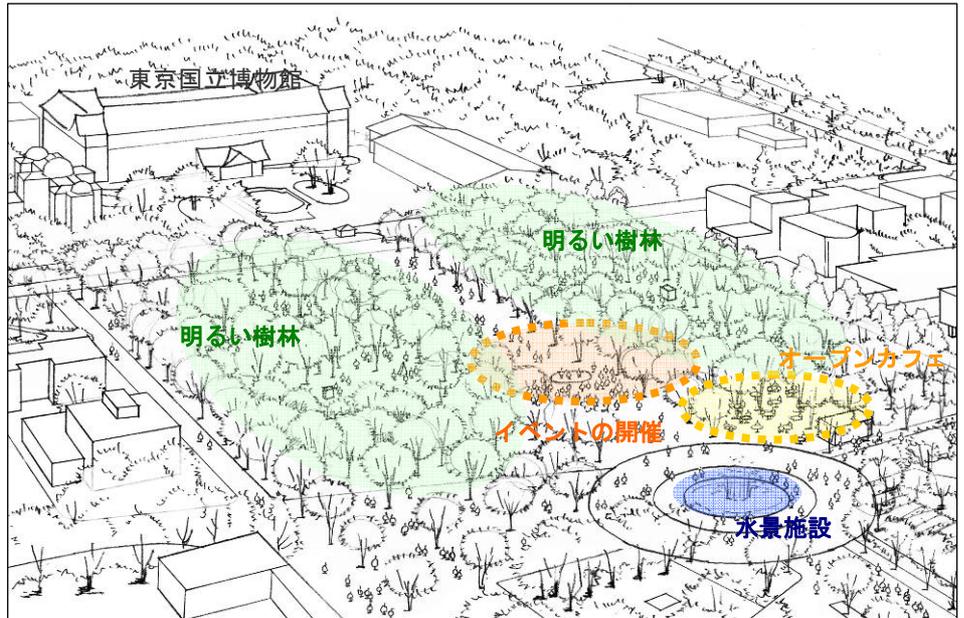
表：比較案の整理

		第1案	第2案	第3案
概要(テーマ)		～「水とみどりの体感」を強調する案～ 上野公園のシンボルでもある サクラと大木による明るい樹林を創出 するとともに、新たな シンボルとなる水景施設を創出 する	～「歴史の体感」を強調する案～ 上野の森の起源ともいえる 寛永寺の伽藍 を意識し、野外オペラ等を開催するために理想的な イベント空間を創出 する	～「文化・芸術の体感」を強調する案～ 文化イベントのための広場を創出 するとともに、 長年親しまれてきた景観を継承 する
整備内容		<ul style="list-style-type: none"> 東京国立博物館へのビスタを強調するようサクラを帯状に植栽 主動線の結節点に噴水を整備 大木中心の明るい樹林を整備 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな芝生広場の整備 寛永寺の伽藍配置を意識して水景施設を整備 大木中心の明るい樹林を整備 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の噴水の形状を極力継承し、多目的に利用できる噴水とその周辺広場を整備 大木中心の明るい樹林を整備
評価	魅力的で多様な文化イベントを開催できる広場の整備	△ 他の2案に比べて大規模なイベント開催は困難。	◎ 現況よりも広い平坦地を確保するため、大規模なイベントにも対応できる。	◎ 第2案とほぼ同等の規模のイベントに対応できる広場を確保することができる。
	東京国立博物館へのビスタを形成	△ 東京国立博物館へのビスタを強調できるが、水景施設越しの景観ではなくなる。	△ ビスタが強調されなくなる。	◎ 現在のビスタ景観を継承できる。
	憩いやすらくことのできる広場や大木中心の明るい林を創出	○ 現在よりも広い範囲で、明るい樹林を形成できる。	△ 大きな広がりをもつ広場を整備するため、緑地が大幅に減少した印象を与える。	○ 概ね現状と同じ広さの樹林を確保できる。
	動線の結節点に相応しい広場の整備	× 主動線の結節点であるため、噴水が大量の来園者を通行を遮断する。	○ 東京都美術館と各文化施設へアクセスとなる明快な動線を確保できる。	○ 東京都美術館と各文化施設へアクセスとなる明快な動線を確保できる。
	水景施設の整備	○ 多くの来園者にとってのランドマークやシンボルとなる新たな水景施設となる。	△ 寛永寺の伽藍配置を意識した新たな噴水が、国立博物館への眺望を遮蔽してしまう可能性がある。	◎ 既存水景施設を移設し、極力形状等を継承してデザインの改修を行うため、長年親しまれた景観を保全できる。
	来訪者が気軽にくつろぎ楽しめるオープンカフェ等の整備	○ 樹林内での飲食を楽しめる。	○ 広場を眺めながらの飲食を楽しめる。	◎ 樹林内で、広場と噴水を眺めながらの飲食を楽しめる。
	管理上の視点	△ 通行量の多い動線を芝生化することは管理上困難。	△ 通行量の多い動線を芝生化することは管理上困難。	○ これまでと同等の管理で対応できる。
	リニューアルの印象づけ	○ 新しいサクラ、大規模な明るい樹林と新たな水景施設による、リニューアルを印象づける効果がある	◎ 上野公園の前身である寛永寺の伽藍配置を想起させ、広がりのある空間が形成されることにより、話題性を高め、リニューアルを印象づける効果がある。	○ 都民に親しまれてきた景観や既存施設・樹林を有効に活かしたリニューアルを印象づける効果がある
平面図	通常時			
	文化イベント開催時			
総合評価		△	○	◎

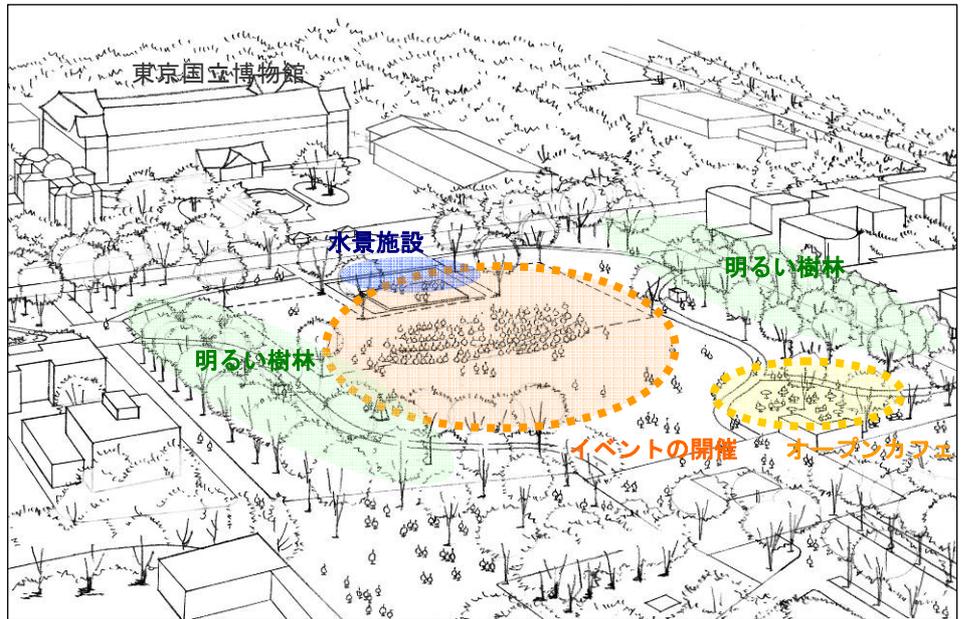
* 各案における文化イベント開催時のイメージ例を 59 ページに掲載

○各案の文化イベント開催イメージ（例）

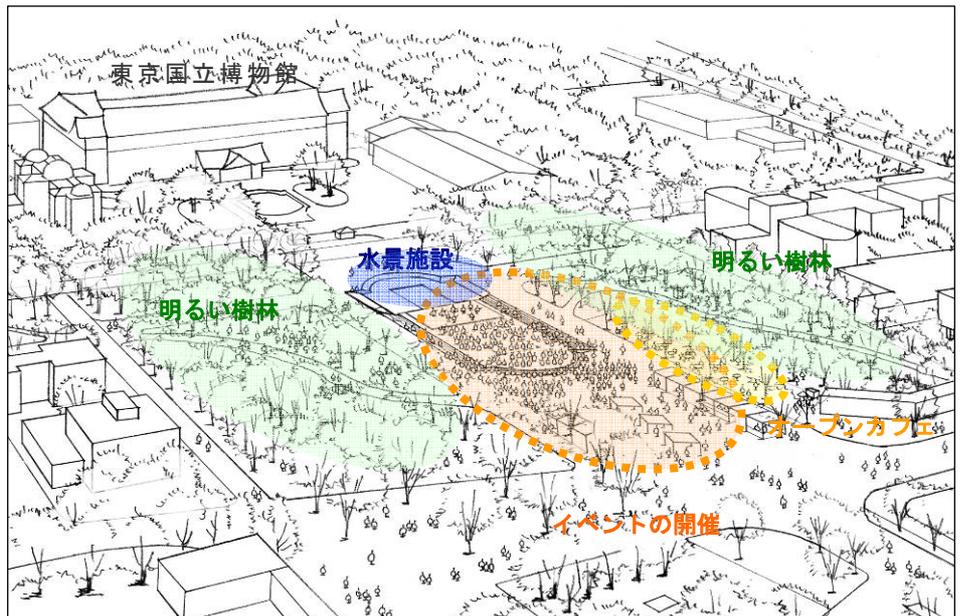
第1案 イメージ



第2案 イメージ



第3案 イメージ



④整備内容

広がりのある平坦面、水景施設や樹林により構成される大空間の特性を活かして、それら要素が一体となって感じられるひとつの大広場として整備する。多様な文化イベントの開催や芸術作品の屋外展示等により、文化の発信がなされるとともに、来園者が憩い・やすらぎ等を得られる場とする。

特に、平坦地では、大規模なイベントが開催できるよう、広がりのある空間を確保する（通常、舞台からの可視限界距離 38m、舞台見通し角 108 度範囲内の収容力は約 2,000 人程度であるが、屋外イベントであることを考慮し、約 3,000 人規模を想定する。なお、それ以上の規模のイベントの場合は大型スクリーン等の設置が必要となる）また、園路整備により、東京都美術館へのわかりやすい動線を確保する。

<広場に導入を図る施設>

a. 噴水

東京国立博物館本館と一体となった景観を形成している既設の噴水を改修し、40 数年にわたり多くの人に親しまれている景観を継承する。（→詳細は「4」噴水について」参照）

b. 明るい樹林

既存の樹林において、樹木の整理と大木の育成を行い、大木中心の明るい樹林を形成する。既存の樹林地内にあるこども広場を、再整備し、機能の充実を図る。

c. オープンカフェ

屋外での飲食が楽しめる新しい魅力として、オープンカフェを導入する。

d. 東京都美術館へのわかりやすい園路

来園者が竹の台広場から東京都美術館の正門を見通すことができる等、わかりやすいアプローチを整備する。

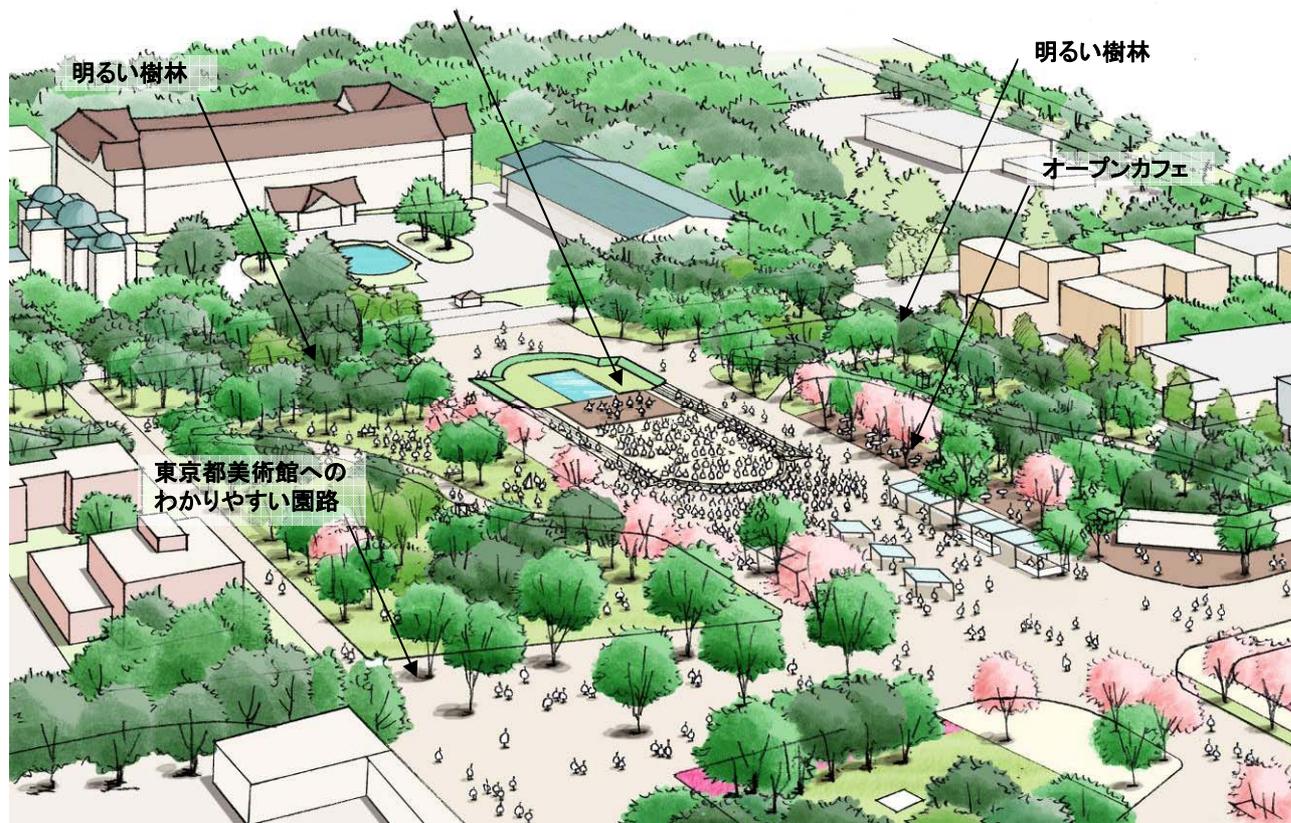
e. 恩賜上野動物園の魅力を高める正門前広場

来園者の期待感を高める魅力的で存在感のあるエントランスとするため、既存施設等の見直しにより、来園者のための広場を創出する。あわせて、動物園を拡張し、動物園の魅力を高める施設を整備する。

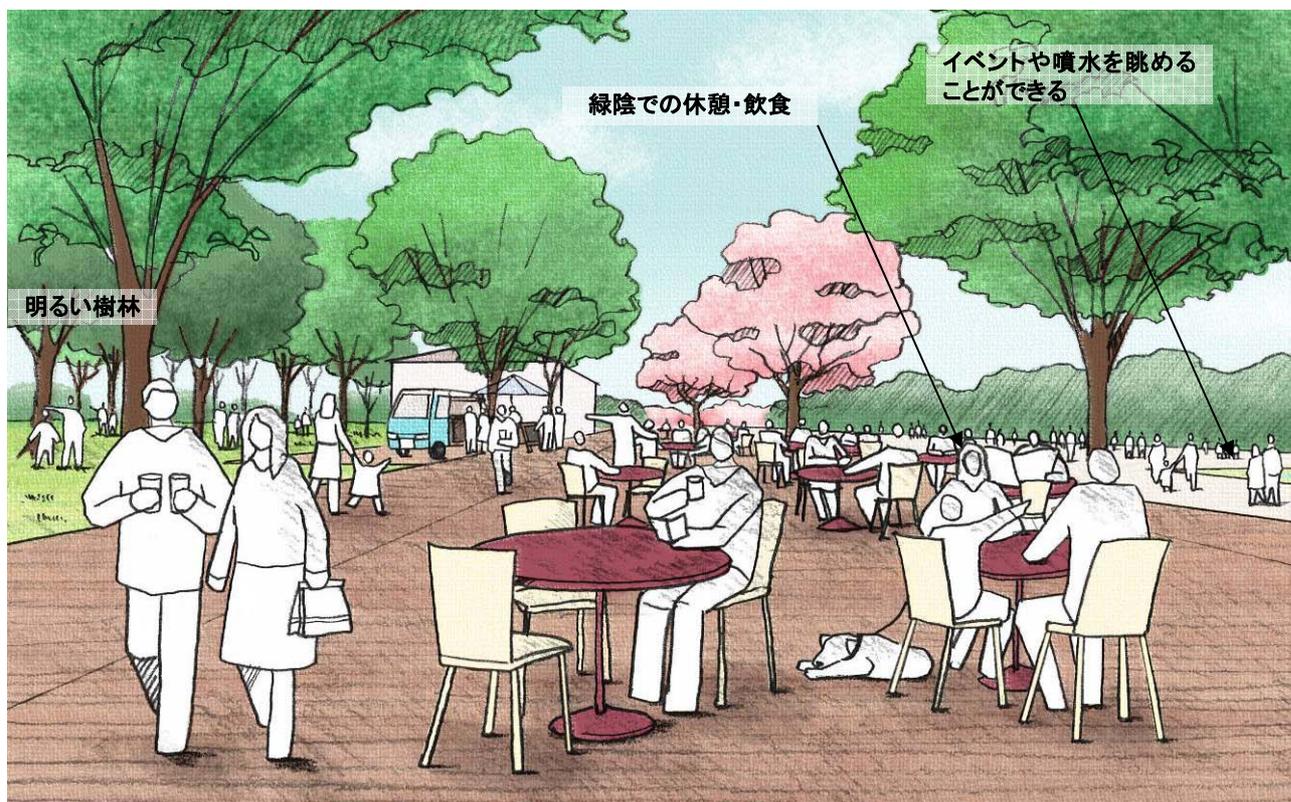


図：「文化の森」の中核となる大広場平面図

イベント等の開催



図：「文化の森」の中核となる広場 全体イメージ



図：明るい樹林とオープンカフェのイメージ

⑤噴水について

現在の噴水は、長年にわたり多くの人々に親しまれてきている一方で、以下のような点が指摘されている。

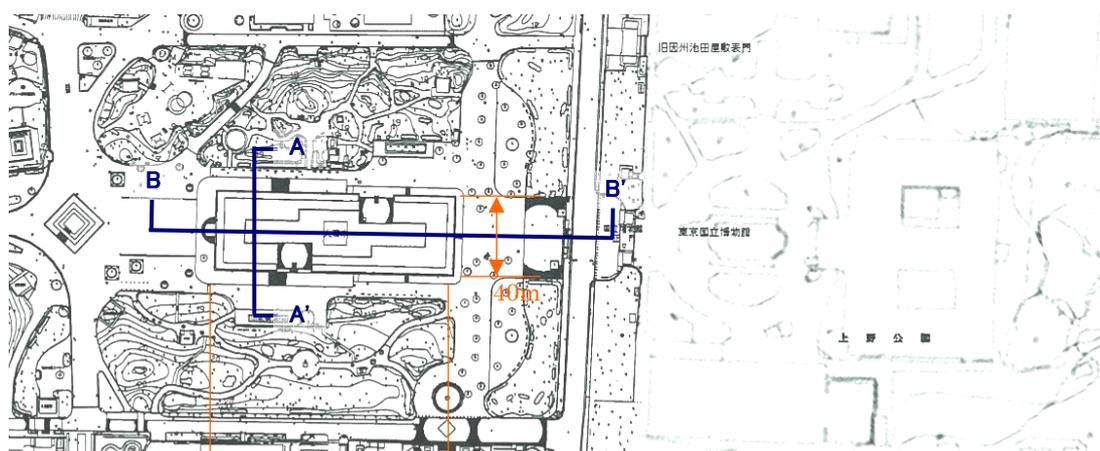
- ・ 噴水が歩行者動線を分断している。
- ・ 縁部を取り巻く低木が大きくなったため、周辺から水面への見通しが利かない。
- ・ 水に近づくことができる部分がテラスに限られ、水面との高低差もあるため、親水性が低い。

以上のような現況を踏まえ、本再生計画においては、長年親しまれてきた景観を継承することを前提として、噴水を現在よりも憩い・やすらぎの場としての魅力づけを行うとともに、他の導入施設（オープンカフェ）や文化イベントの開催等を視野に入れ、以下のような考え方を設定し、整備内容の検討を行う。

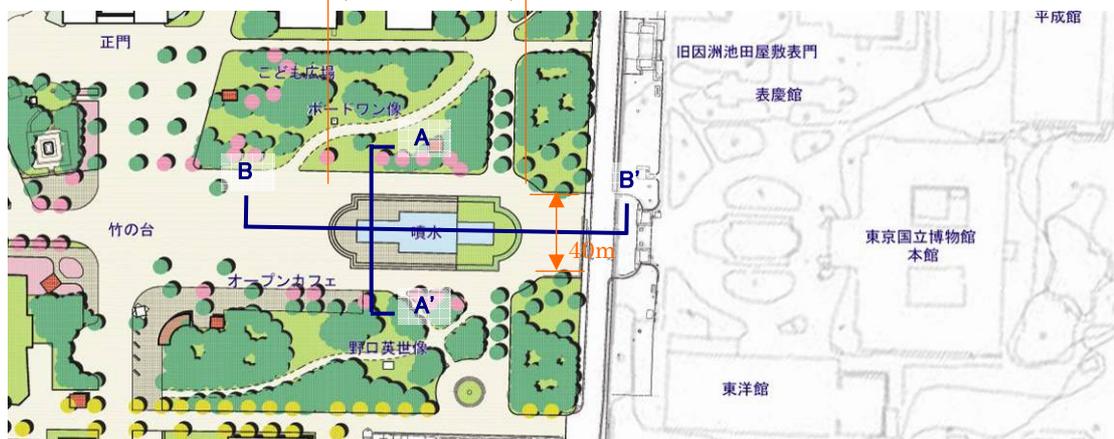
- 長年親しまれてきた景観を維持するため、形状等を継承したデザインとする
- 親水性の向上と東西方向の歩行者動線を確保する
- イベント等の開催の場として積極的な活用を図る

【平面図】

現況

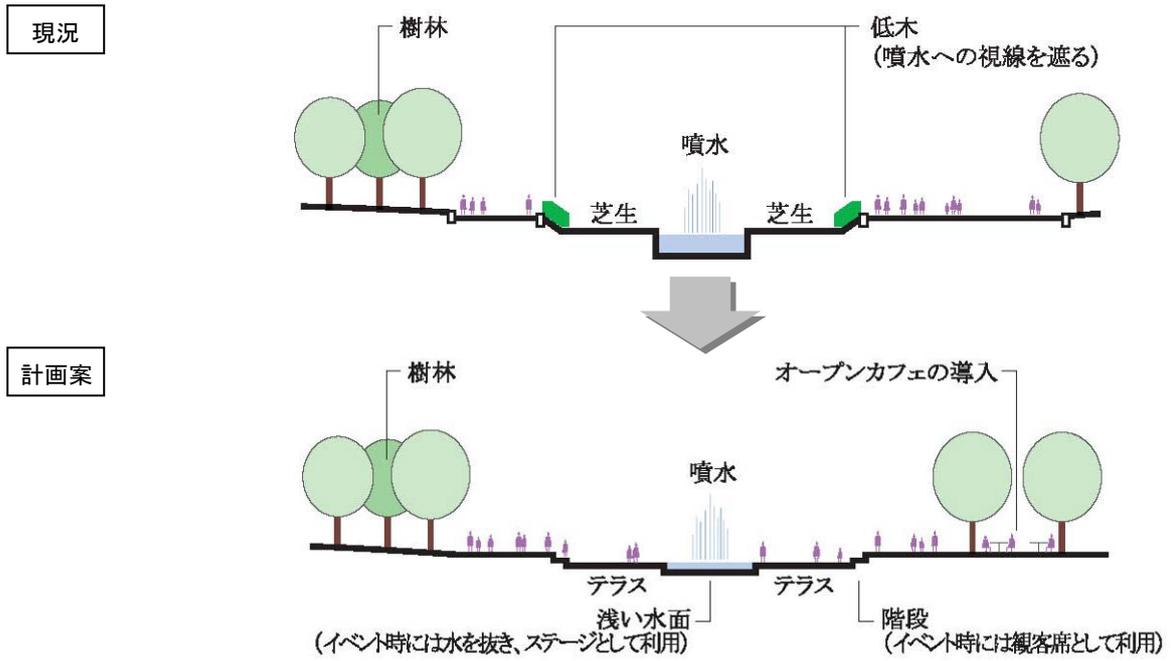


計画案

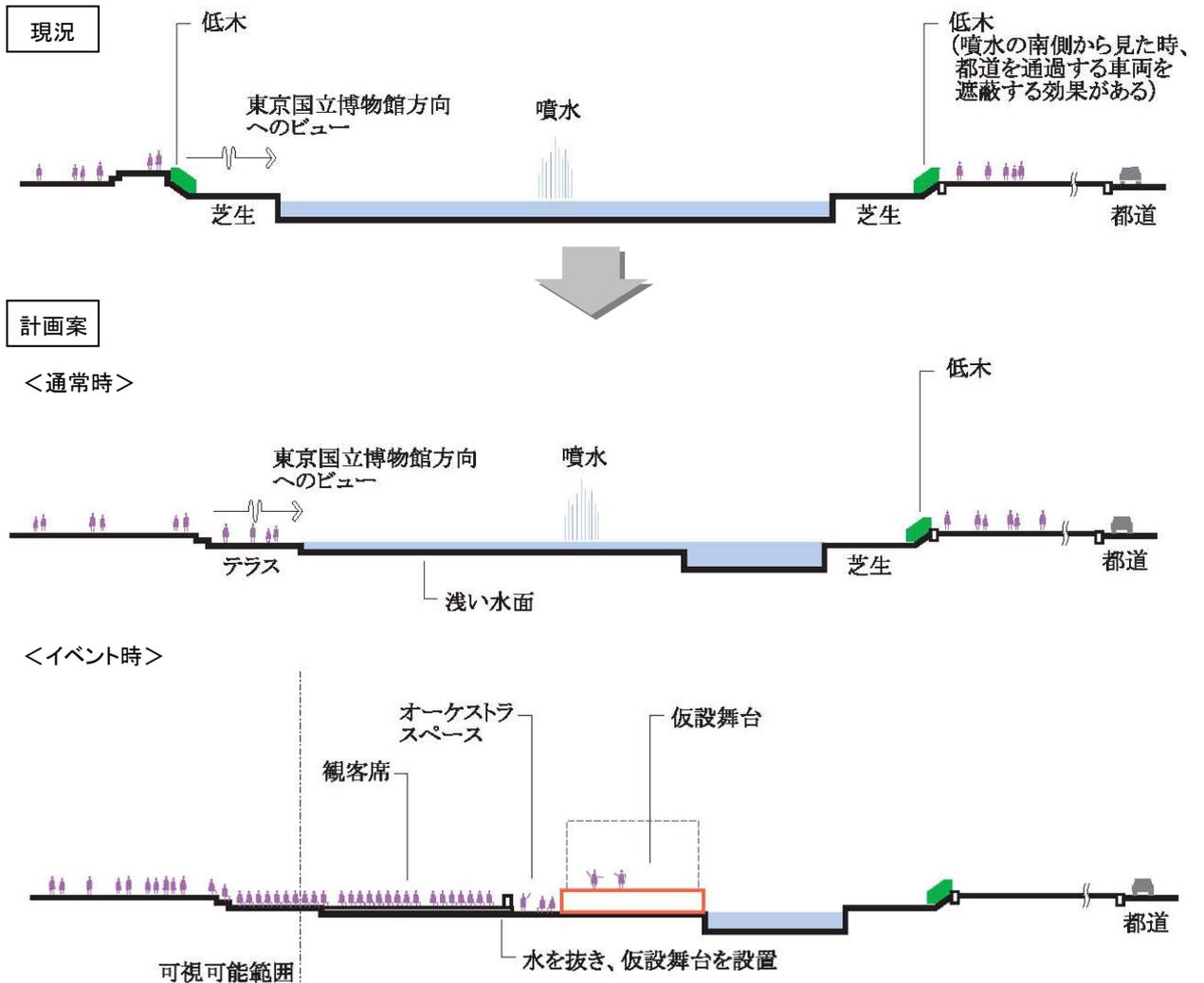


※橙色の数値はおおよその数値をあらわす

【A-A' 断面イメージ】



【B-B' 断面イメージ】



【整備のイメージ】

①噴水越しに東京国立博物館方面を見たイメージ



現況



計画案

②噴水越しに南側を見たイメージ



現況



計画案

⑥想定するイベントへの対応

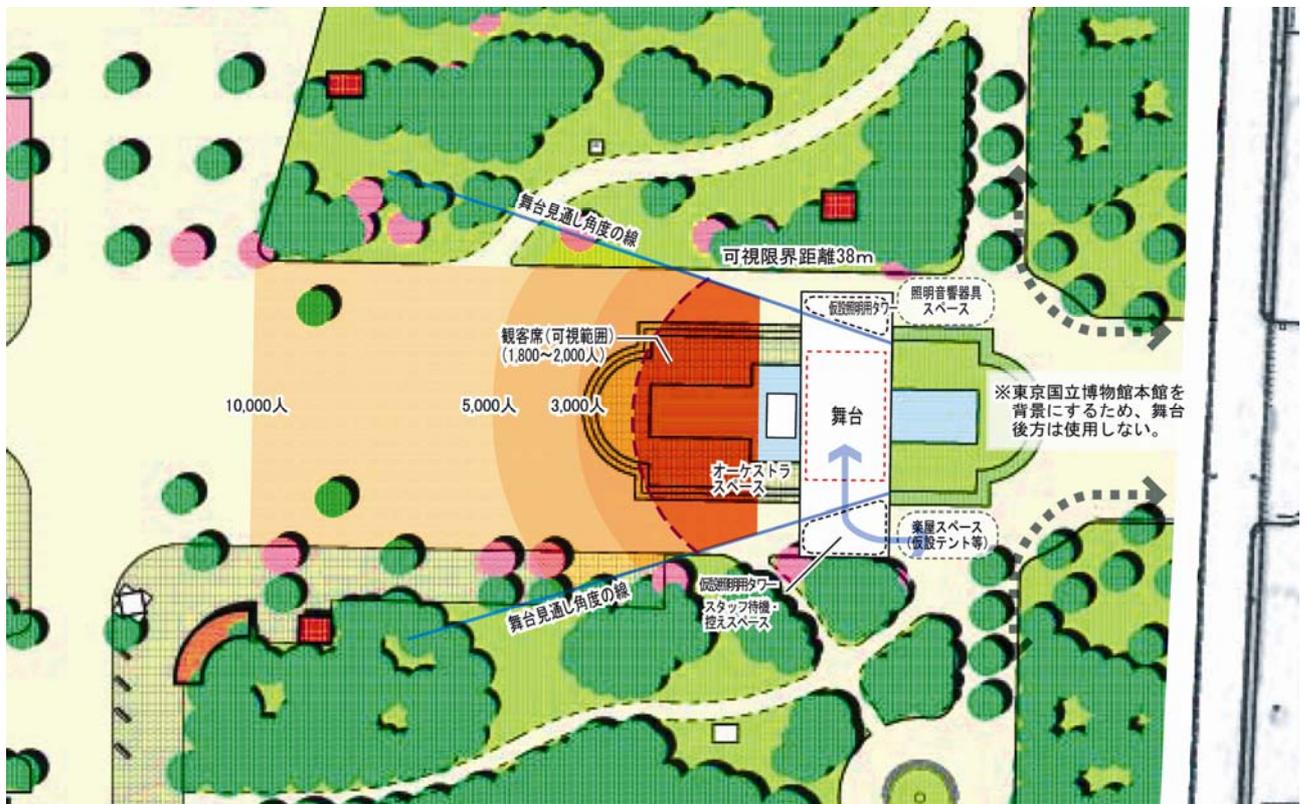
「文化の森」の中核となる大広場は、世界に向けて文化を発信する文化イベントの主要な開催の場となる。具体的な開催イベントについては、今後、ミュージアムコンソーシアム等の関係機関との連携のもと、調整を進めていくこととなるが、本再生計画では、ひとつの事例として、野外オペラを、「文化の森」の中核となる大広場での想定イベントとして、実施方法等について検証を行う。

＜野外オペラ上演に必要なスペース＞

- ・舞台：オペラ・バレエに必要な間口 $PW=14.5m$ （出典①より）
小規模の舞台規模（副舞台がない場合） $2PW \times 1.2PW$ 以上②より $29m \times 17.4m$
- ・オーケストラスペース：小編成オーケストラ演奏に必要なスペース（出典②より） $10m \times 6.5m$
- ・上演スタッフ待機・控えスペース
- ・楽屋スペース
- ・照明音響器具スペース：東京国立博物館本館を背景にするため、舞台脇に設置

※出典：①『建築設計資料集成〔人間〕』H15年9月(社)日本建築学会編
②『建築設計資料集成〔展示・芸能〕』H15年9月(社)日本建築学会編
③『第2版コンパクト建築設計資料集成』H6年8月(社)日本建築学会編

以上の内容を踏まえ、「文化の森」の中核となる大広場における、野外オペラ開催時の必要スペースの配置を以下のとおりに想定する。



図：野外オペラ開催時の平面イメージ

(2) JR 上野駅公園口周辺エリア

JR 上野駅公園口周辺エリアについては、エリアを特徴づける施設である **JR 上野駅公園口前広場**を中心として導入施設の内容を整理する。

①整備の方向性

「上野公園ランドデザイン検討会報告書」を踏まえた、JR 上野駅公園口周辺エリアの整備の方向性は以下のとおりである。

<整備の方向性>

○「文化の森」の顔に相応しい入口広場の整備

- ・ 来訪者の安全で円滑な歩行者動線の確保
- ・ 関係機関等との協力によるメインエントランスに相応しい風格ある広場の整備
- ・ 周辺施設との一体となる魅力的なプロムナードの形成
- ・ まちとの結節点に相応しい情報発信機能の充実

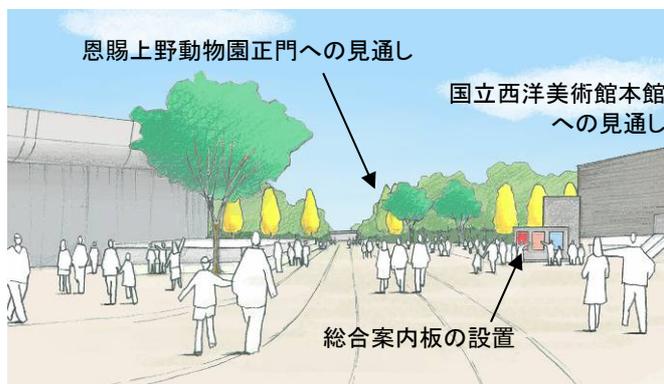
②整備内容

JR 上野駅に直結し、多くの来園者が上野公園へのアクセスとして利用するエリアであることから、来園者をスムーズに公園内に誘導するとともに、公園や文化施設での催し等に関する情報・サービス提供を行うメインエントランスとする。

多くの来園者の集散・滞留、及び誘導に供する広がりのある空間を確保する。また、恩賜上野動物園正門への見通しや、近接する国立西洋美術館本館へ多様な方向からの見通しを確保する。



図：JR 上野駅公園口前広場



図：JR 上野駅公園口前広場イメージスケッチ

(3) 寛永寺清水堂など歴史資源エリア

寛永寺清水堂など歴史資源エリアについては、エリアを特徴づける**歴史資源の活用と眺望景観の再現**を中心として導入施設の内容を整理する。

①整備の方向性

「上野公園ランドデザイン検討会報告書」を踏まえた、歴史資源エリアの整備の方向性は以下のとおりである。

<整備の方向性>

○ 歴史資源の活用と眺望景観の再現

- ・江戸図絵等に描かれた寛永寺清水堂から不忍池への眺望景観の再現
- ・多くの来訪者にわかりやすく歴史資源を紹介

②整備内容

江戸図絵等に描かれた寛永寺清水堂から弁天堂・不忍池方面への歴史的な景観の再現と眺望確保を図るため、現在、眺望を妨げている樹木の整理を行う。

袴腰と寛永寺根本中堂とを繋ぐ参道であったとともに、現在でも多くの来園者により利用されていることから、主動線として、円滑な利用ができる現在の幅員を確保する。さらに、サクラの樹勢回復と後継樹の育成により、桜並木の更新を図る。



図：歴史資源の活用と眺望景観の再現拡大平面図

<歴史資源の活用と眺望景観の再現に導入を図る施設>

a. 既存樹木の整理

既存の樹木を整理して、歴史的景観の再現や崖線のタブ林を保全する。

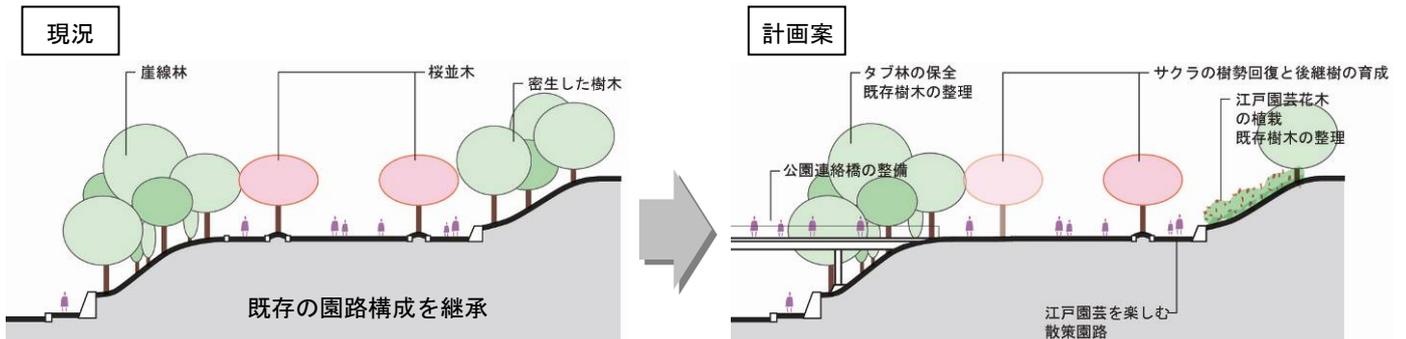
b. 桜並木

桜花期には花見の場として親しまれていることから、サクラの樹勢回復と後継樹の育成により、上野公園を象徴する名所としての桜並木を更新する。

c. 江戸園芸花木等

東側の斜面地を活かして、江戸の歴史性を演出する花木等の植栽を導入する。

【A-A' 断面イメージ】



【整備のイメージ】

① 弁天堂と不忍池方面を見たイメージ



現況



計画案

② 寛永寺清水堂を見上げたイメージ



現況



計画案

(4) 桜ヶ丘エリア

桜ヶ丘エリアについては、エリアを特徴づける施設である**サクラの観賞広場**を中心として導入施設の内容を整理する。

①整備の方向性

「上野公園ランドデザイン検討会報告書」を踏まえた、桜ヶ丘エリアの整備の方向性は以下のとおりである。

<整備の方向性>

○桜の名所の復活

- ・ 多種のサクラの植栽
- ・ サクラを静かに観賞できる場の整備

②整備内容

かつて寛永寺の時代、多種類のサクラが植えられ、庶民に対して花見が許された場所であることから、サクラの名所、花見空間の場とする。

細分化された園路を整理し、まとまりのある空間をつくとともに点在する歴史的記念物等との調和を図る。

<広場への導入を図る施設>

a. サクラ

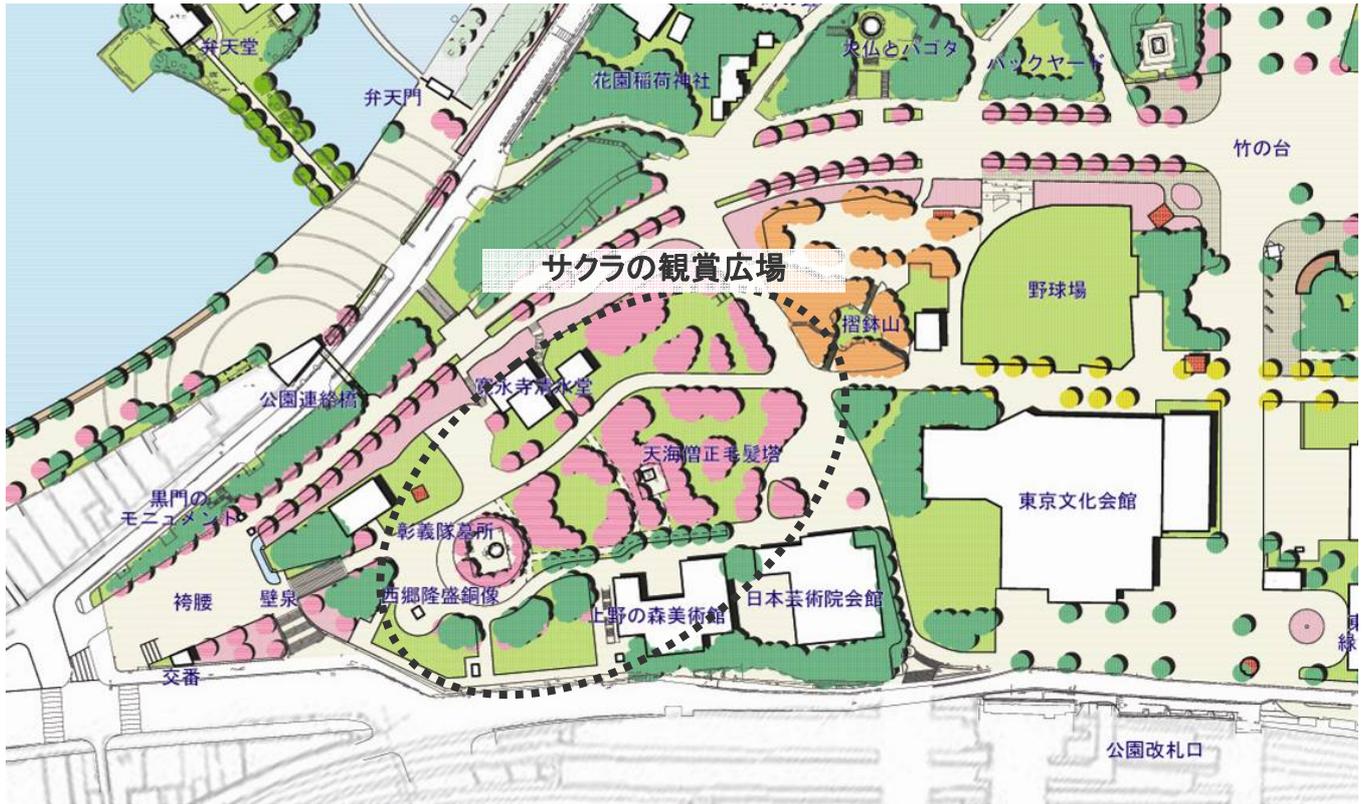
既存樹木の移植・剪定等、サクラの新植により、多種類のサクラで溢れるサクラの森を整備する。

b. ユニバーサルデザインに対応した施設の改修

西郷会館の建替により、新たな移動動線が確保されることから、これにあわせて、ユニバーサルデザインに対応したトイレや園路の整備を図る。

c. 眺望

近世から近代への転換期を象徴する西郷隆盛銅像や彰義隊墓所周辺は、鬱蒼とした樹林に囲まれているため、公園からまちへの眺望が得られるように明るい芝生の整備や、JRの電車の中から上野のサクラを楽しめるよう、まちから公園への眺望を改善する。



図：サクラの観賞広場拡大平面図

(5) 袴腰エリア

袴腰エリアについては、エリアを特徴づける施設である**袴腰入口広場**を中心として導入施設の内容を整理する。

①整備の方向性

「上野公園グランドデザイン検討会報告書」を踏まえた、袴腰エリアの整備の方向性は以下のとおりである。

<整備の方向性>

○歴史が感じられるエントランス広場の整備

- ・ 風格ある入口広場の整備
- ・ まちとの結節点に相応しい情報発信機能を充実

②整備内容

寛永寺の時代、上野の山のメインエントランスであったことから、その歴史性を体感できるメインエントランスとする。

往時と同じような空間構成に配慮し、広がりのある空間を確保するとともに、歴史性、象徴性の演出やメインエントランスとしての必要となる情報提供を行う。



図：袴腰入口広場拡大平面図

<広場への導入を図る施設>

a. モニュメント

江戸時代に存在した黒門を想起させるモニュメントを設置する。

b. 壁泉

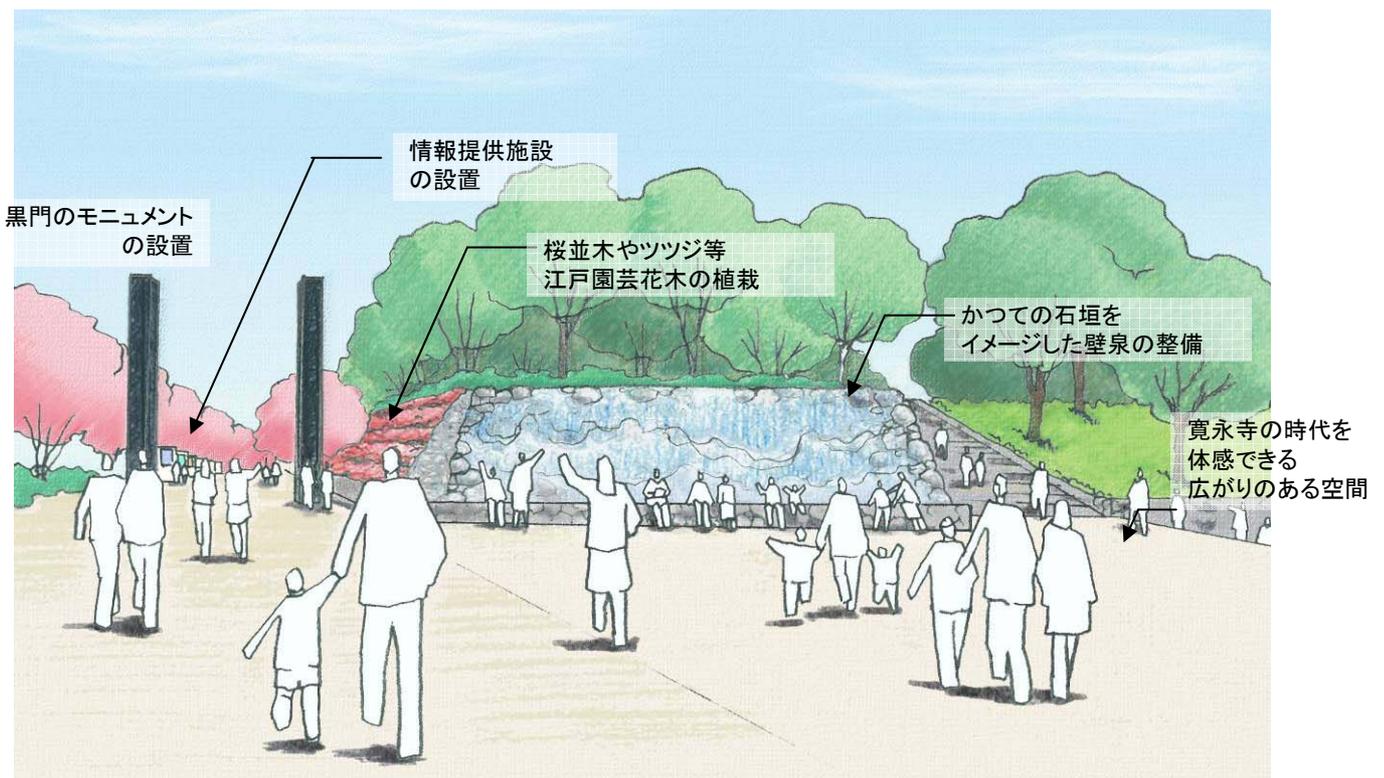
高低差のある地形を活かし、黒門のモニュメントを際立たせ、袴腰の象徴性を高める壁泉を整備する。

c. 情報提供施設

袴腰はまちとの結節点でもあることから、提供する情報の内容や更新方法等を検討するとともに、各文化施設との役割分担を明確にした上で、上野公園の情報のみならず、上野商店街等周辺地域の情報をも提供する合同掲示板等を設置する。

d. 江戸園芸花木等

前述のモニュメントと併せて、歴史性を演出する江戸園芸花木等の植栽を導入。



図：袴腰入口広場イメージスケッチ

(6) 不忍池エリア

不忍池エリアについては、エリアを特徴づける施設である**下町文化体感広場**を中心として導入施設の内容を整理する。

①整備の方向性

「上野公園ランドデザイン検討会報告書」を踏まえた、不忍池エリアの整備の方向性は以下のとおりである。

<整備の方向性>

○下町風俗資料館の拡充とイベント広場の整備

- ・下町風情を体感できるイベント広場の創出
- ・下町風俗の体験型展示、下町文化や芸能が堪能できる施設として再構築
- ・公園と下町風俗資料館相互の移動を円滑にする動線の確保

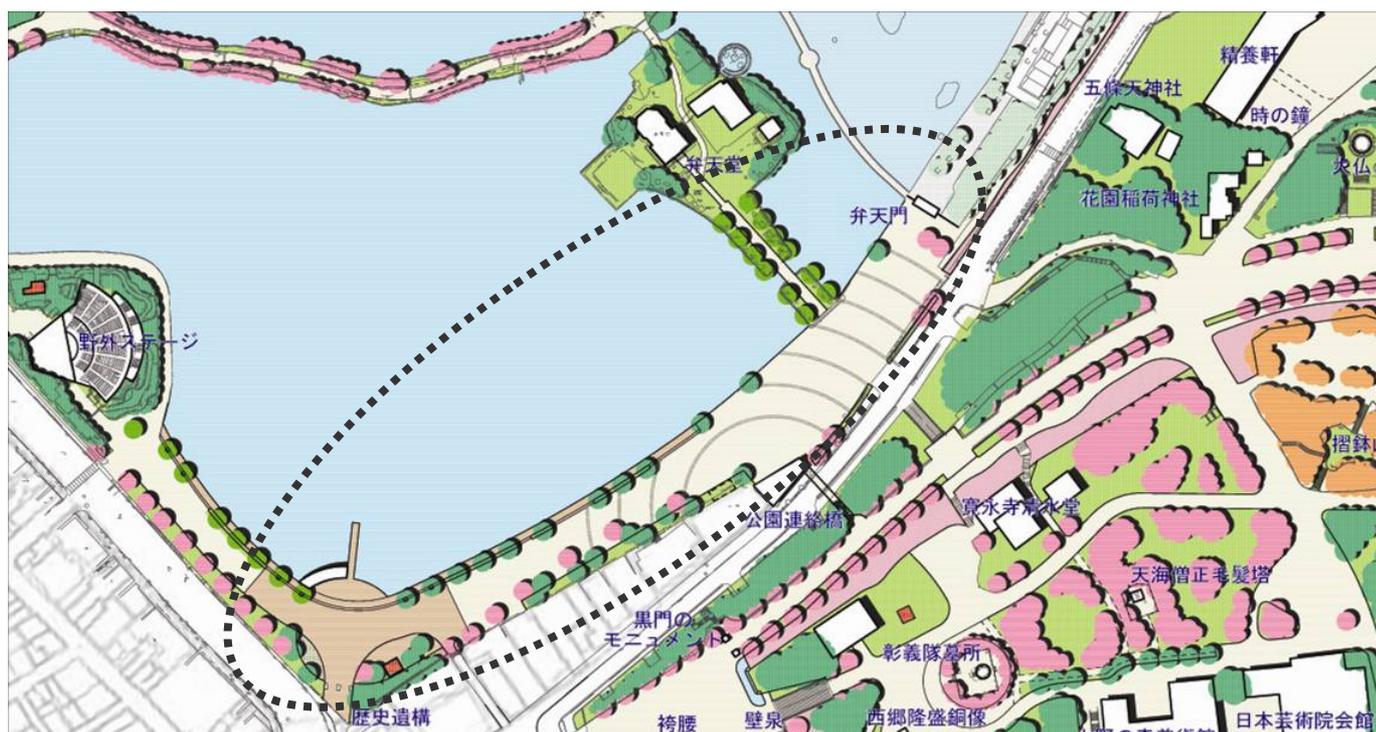
○下町文化を楽しめる池畔の整備

- ・蓮見を楽しめる親水性の高い池畔の整備
- ・ハスの生育環境の改善や不忍池の水質を改善
- ・休息や散策を楽しめる園路の整備

②整備内容

不忍池一帯は、江戸時代より、景勝地として庶民に親しまれてきたことから、下町文化と水辺の魅力を体感する活動が展開できる場とする。

弁天堂前の池畔は、下町風俗資料館の移設と併せて、下町文化を体感できる拠点として、イベント等の開催に対応する広がりのある空間を確保する。



図：下町文化体感広場拡大平面図

<広場への導入を図る施設>

a. 下町風情を体感できるイベント広場

寛永寺清水堂と弁天堂を結ぶ軸線の中央には、下町文化イベントを開催できるイベント広場を整備する。

b. 池畔の散策路

不忍池の景観や蓮見を楽しめる池畔の散策路などを整備する。

c. 蓮の生育環境の改善と不忍池の水質改善

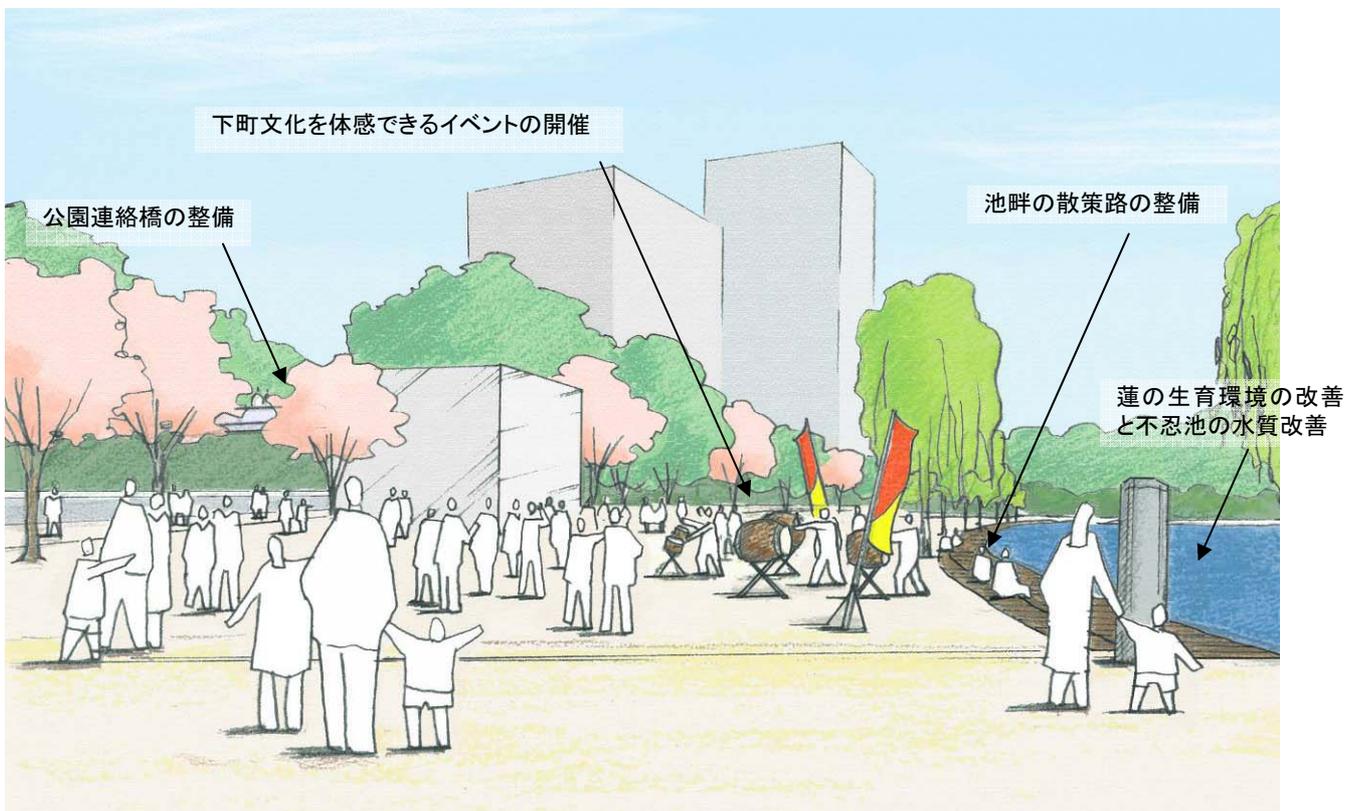
水面が見えなくなるほど、蓮が密生しているため、間引き、枯れ葉の除去等、蓮の生育環境を改善する。また、ボート池に水質浄化施設を設置するとともに、ボート池と蓮池の水循環を促進することにより、水質の改善を図る。

d. 歴史遺構

不忍池の歴史性を伝えるため、不忍池畔のエントランス等に、江戸時代に存在した三橋の遺構等の展示を行う。

e. 公園連絡橋

下町風俗資料館の移設と併せて、上野の山と不忍池の移動の円滑化を図る公園連絡橋を整備する。



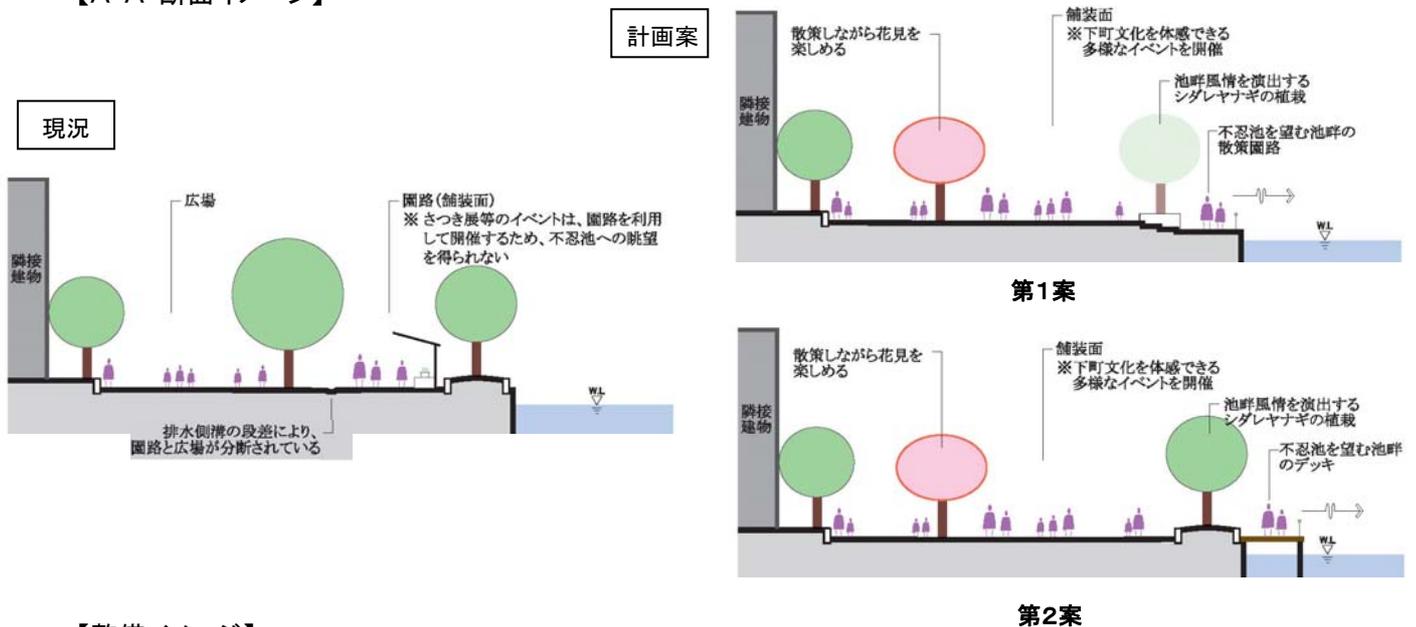
図：下町文化体感広場イメージスケッチ

3) 池畔の散策路について

池畔の散策路の整備にあたっては、現在の蓮池の景観に着目した比較を行う。

		第1案		第2案	
整備内容		既存の護岸の位置は変えずに、池沿いに散策路を整備する。		既存の護岸の池側に新たにデッキを整備する。	
評価	水面の面積	○	現在の蓮池の広がりを継承する。	×	現在よりも、蓮池の水面が狭くなる。
	親水性	△	親水性は、現況より高い。	○	水域に張り出しているため、親水性と共に、開放感が高い。
	整備費	○	陸域のみの工事となる。	△	第1案に比べて水域の工事部分が増額となる。

【A-A' 断面イメージ】



【整備イメージ】

①池畔から蓮池を望むイメージ



現況



計画案

(7) 便益施設

①サービス施設

現在、公園内のサービス施設としては、JR 上野駅公園口周辺に売店（公園案内所が併設）が設置されている。

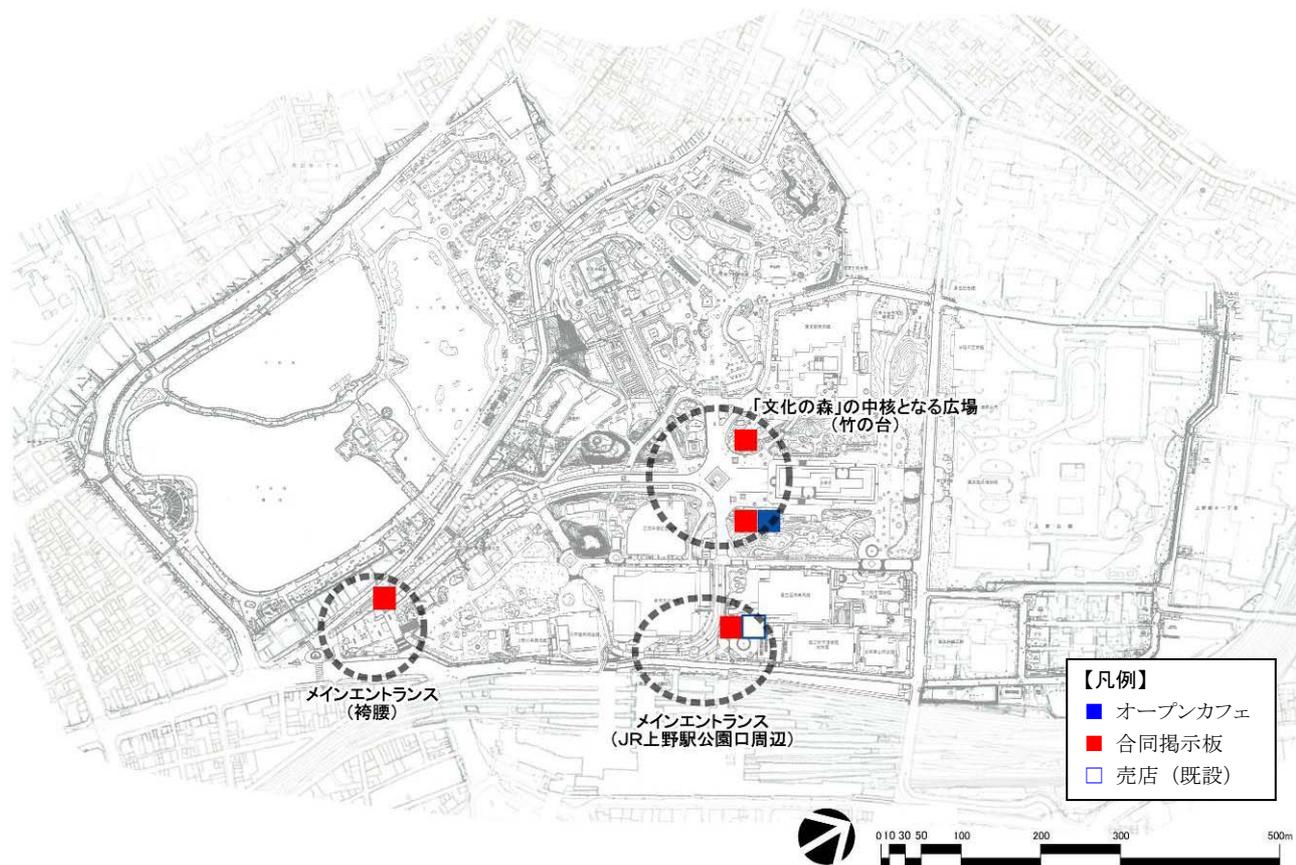
本再生計画では、「上野公園グランドデザイン検討会報告書」でも示されたように、屋外で気軽に飲食を楽しむためのサービスの導入を図るという観点から、来園者の利用が集中し、噴水や明るい樹林、文化イベントの開催等、公園の多様な魅力を楽しむことができる「文化の森」の中核となる大広場に、オープンカフェの導入を図る。

②情報提供施設（合同掲示板）

現況のサインは、常設、仮設を含め、様々な種類のサインが乱立し、景観的な阻害要因ともなっていることから、デザインの統一と集約化を図り、適切な場所での確かな情報提供を図る。

施設の分布状況や、公園・文化施設等での催し等については、来園者に情報を適切に提供するため、メインエントランス、竹の台等、集散・滞留の場となる場所に、合同掲示板を整備する。

デザインの統一や集約化にあたっては、各文化施設と連携を図り、設置する施設と提供する情報の内容や更新方法等について検討するとともに、各文化施設との役割分担を明確にする。



図：サービス施設・情報提供施設（合同掲示板）の配置図

合同掲示板に掲載する情報は、設置場所により異なるが大きく以下の2種類に分類する。

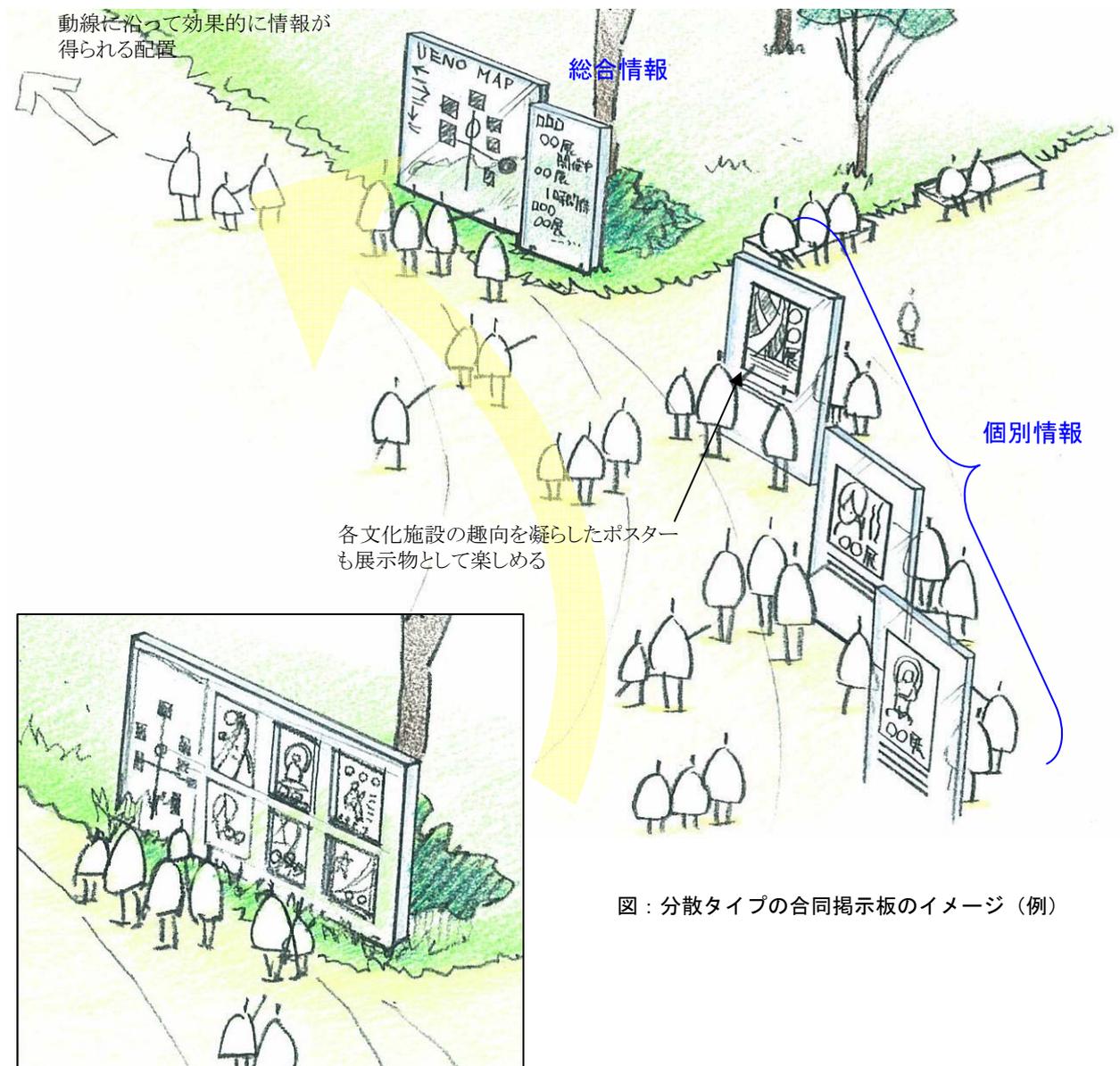
● 「文化の森」に関する総合情報

- ・ 全体地図（文化施設等の位置）
- ・ 「文化の森」で催しているイベント一覧（文化施設で開催中の企画展等）
- ・ 各文化施設の入館待ち時間（電光掲示等によるライブ情報）

● 各文化施設等の個別情報

- ・ 施設の概要、開館時間、入館料、常設展の内容
- ・ 企画展の情報（ポスター等）

合同掲示板は、上記の2種類の情報を掲載することを基本として、設置場所の特性に応じて各情報を分散させた「分散タイプ」と、集約させた「集約タイプ」を効果的に配置していくものとする。



図：分散タイプの合同掲示板のイメージ（例）

図：集約タイプの合同掲示板のイメージ（例）

③ 便所

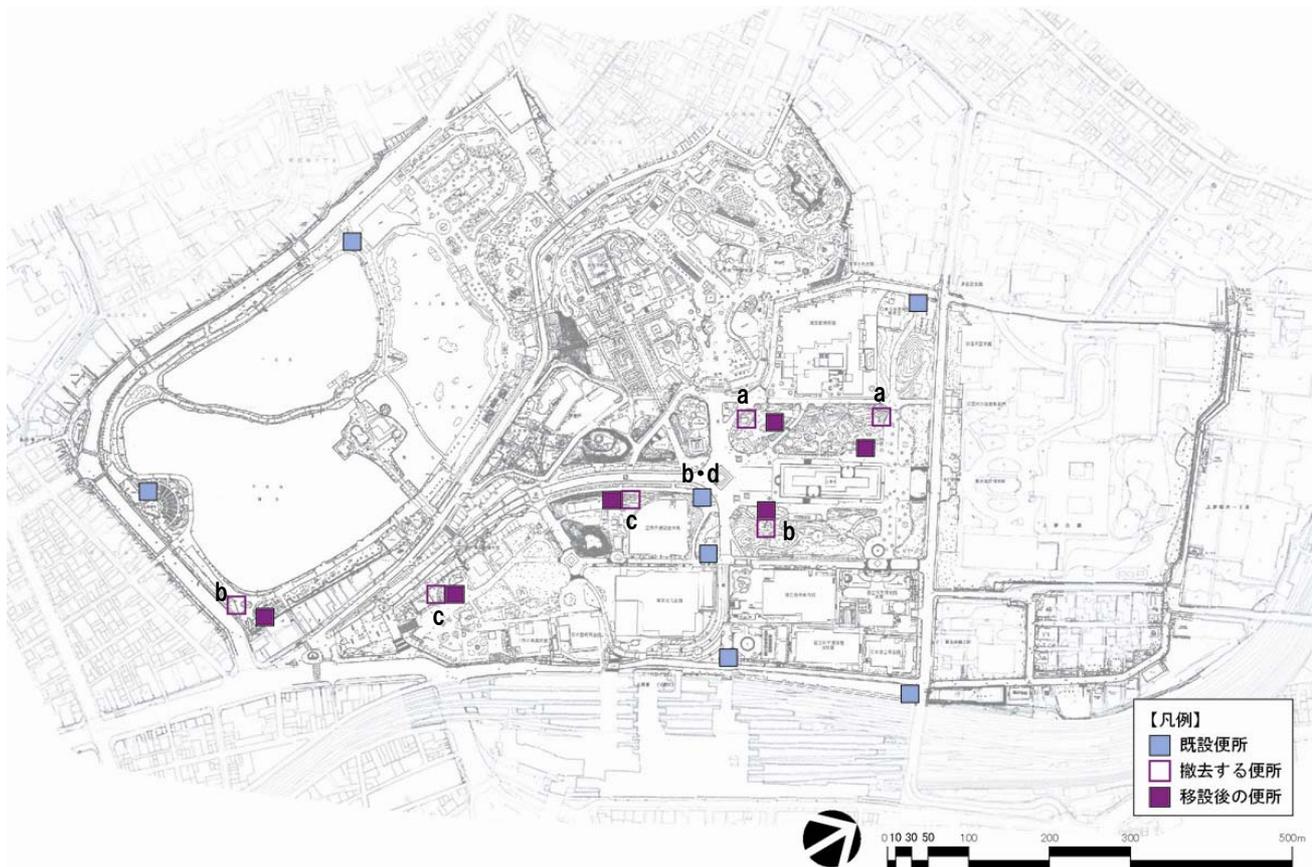
常設の便所については、現況の穴数を維持することを基本とし、本再生計画に伴い、必要に応じて以下に示すような再配置を行う。(都市公園利用実態調査に基づく需要予測から算出した必要穴数 47 穴に対して、現況 133 穴)

- 広場の形状、園路の線形等の変更に伴う再配置 a
- 効果的な利用や、景観面への配慮を踏まえた再配置 b
- 防災面や建築年数等を踏まえた再配置 c
- 他の施設との一体的整備 d

上記の考え方を踏まえ、便所については、以下の整備を計画する。

現況 13 箇所の便所に対して

撤去（移設） : 6 箇所



図：便所の配置図

※図中のアルファベットは、考え方のアルファベットに対応(撤去(移設)の理由を示す)

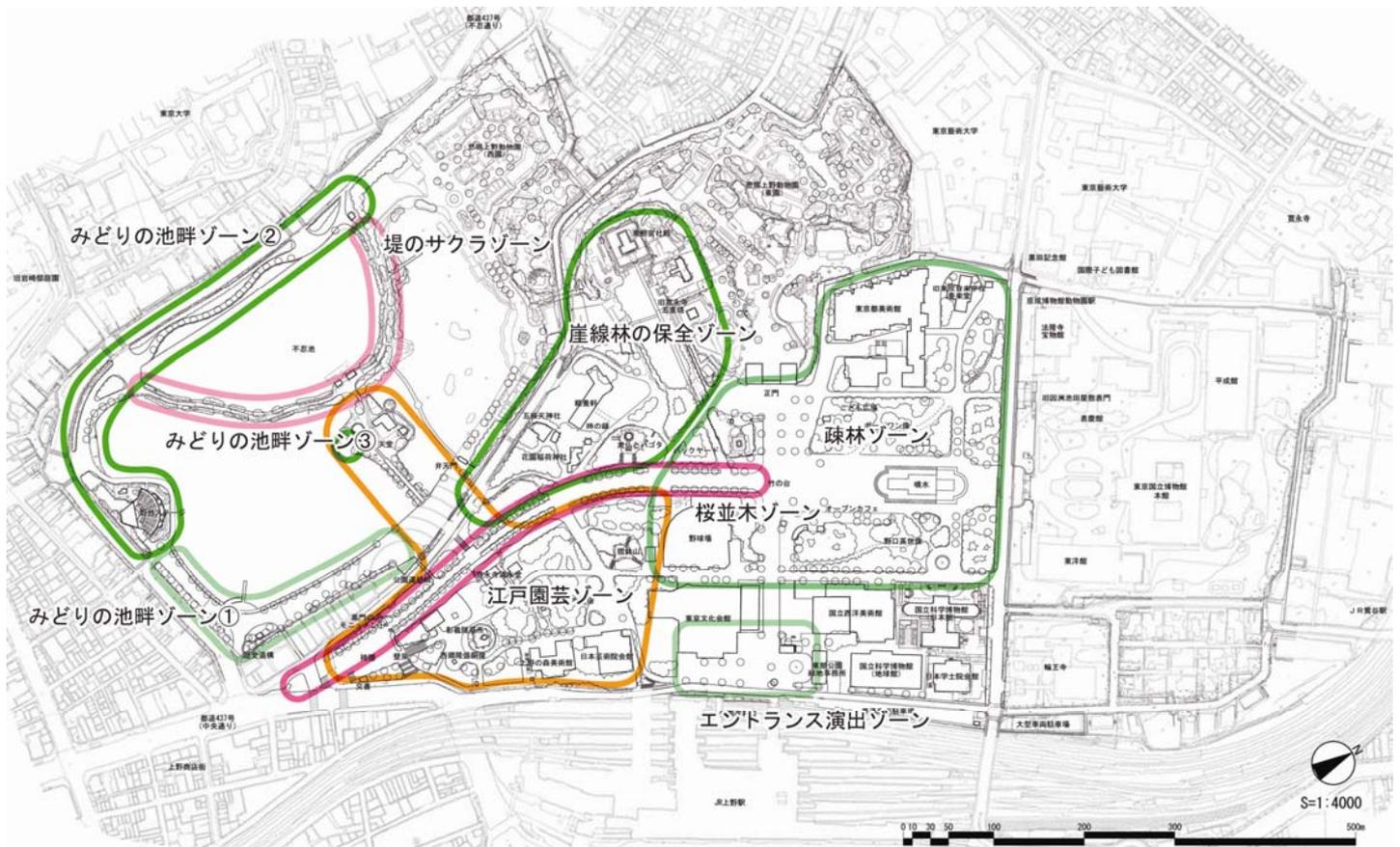
④ 休養施設

「文化の森」の中核となる大広場、サクラの観賞広場、下町文化体感広場等を重点に、公園全体としてバランスのとれた施設配置を行う。

6. 植栽計画

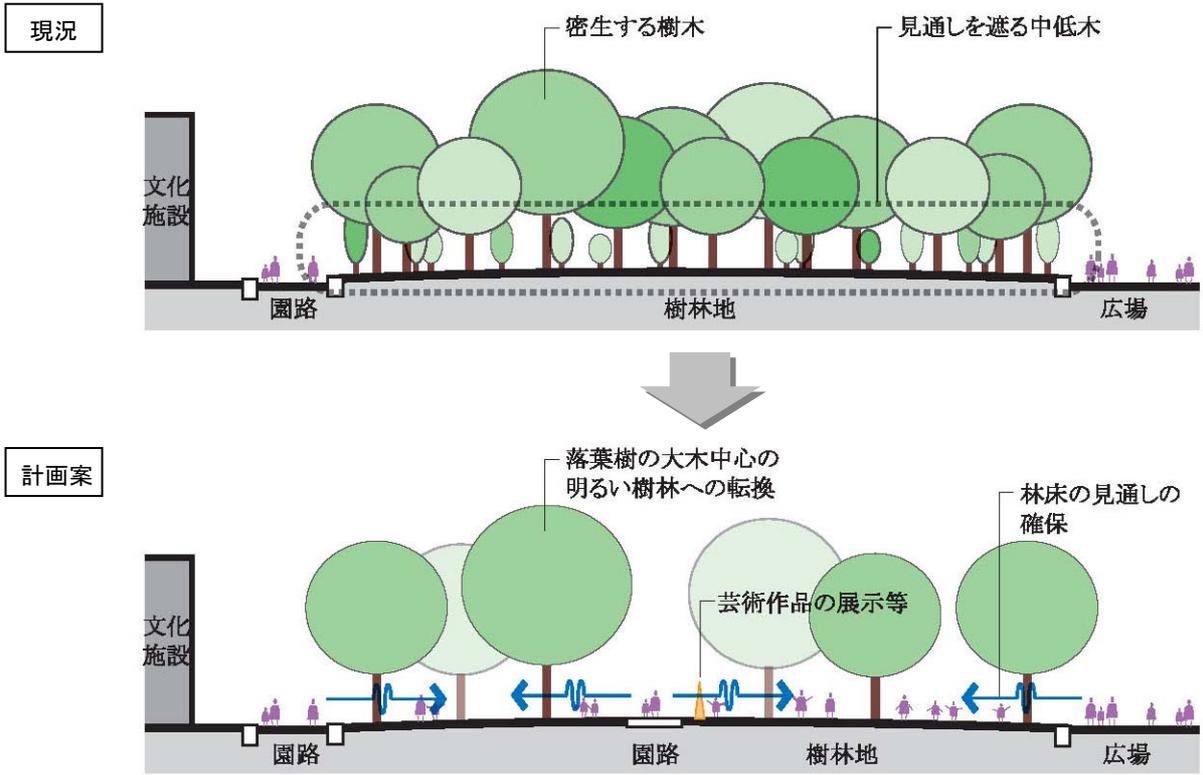
本再生計画では、計画区域における植栽への要求に応じて、大きくゾーン分けを行い、植栽の考え方を設定する。

植栽ゾーン	役割	植栽の考え方	
疎林ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な芸術活動や憩い・やすらぎのための明るい空間の提供 ○ 見通しの確保 ○ 主軸の演出 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存樹木の整理と大木の育成 ・サクラの植栽 ・林床への草花・花木の植栽 	
エントランス演出ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来園者の誘導 ○ 主軸の演出 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存樹木の保全・移植 	
崖線林の保全ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上野の山を形づくるみどりのまとまりの維持 ○ 眺望(見通し確保) 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存樹木の整理とタブ林の保全 ・眺望確保のための中低木の整理 ・花木の植栽 	
桜並木ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主軸の演出 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜並木の更新 	
江戸園芸ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的な演出 ○ 花見空間の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・多種類のサクラ林への転換 ・斜面地への花木の植栽 ・台地を縁取るみどりの形成 ・四季折々の表情を演出する樹木への転換 	
堤のサクラゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不忍池の一体感の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・サクラの保全 	
みどりの池畔ゾーン	①	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちから公園への見通しの確保 ○ 不忍池の一体感の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちからの見通しに配慮した高木植栽 ・サクラの植栽
	②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緩衝緑地 ○ 不忍池の一体感の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・車道側の騒音緩和に配慮した高木植栽 ・池畔沿いのサクラの植栽
	③	<ul style="list-style-type: none"> ○ 弁天島の演出 	<ul style="list-style-type: none"> ・サクラ、ウメ、フジ等の植栽

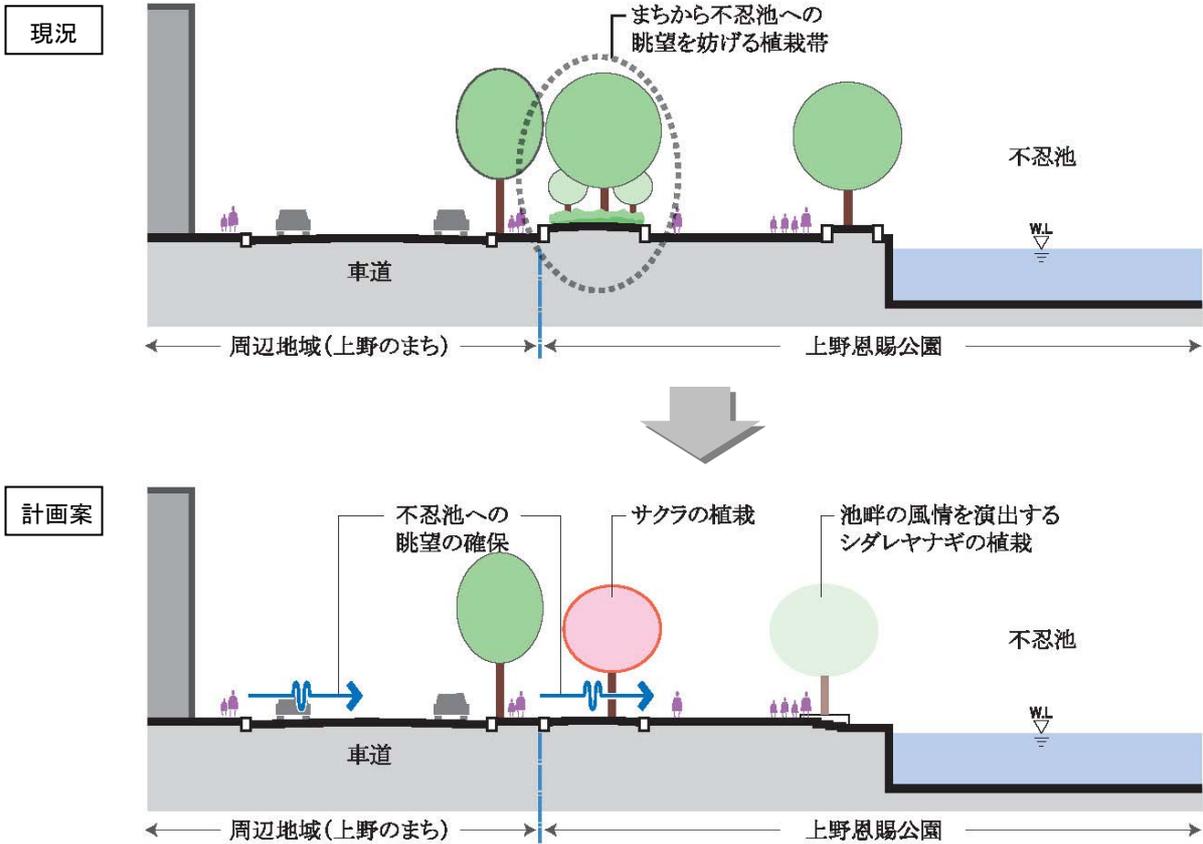


図：植栽ゾーン配置図

【疎林ゾーン 断面イメージ】



【みどりの池畔ゾーン① 断面イメージ】



7. 設備計画

設備については、公園利用の形態として大きく、基本的な考え方、催事・イベント等の一時利用について考え方を以下のとおりに整理する。

(1) 給水・排水設備

給水設備、排水設備についての考え方は以下のとおりである。

<基本的な考え方>

- 老朽化した施設を更新する。
- 本再生計画により、新たに導入する施設のうち、給水・排水を必要とする施設への給水、及び排水系統を確保する。
- 防災機能の充実を図るための施設を整備する。

<一時利用についての考え方>

- 一時的に行われる大規模なイベント等の際には、必要に応じて仮設便所を設置し、そのための給水、及び排水系統を確保する。

(2) 電気設備

電気設備についての考え方は以下のとおりである。

<基本的な考え方>

- 主要な園路の照明を改善する。
- 老朽化した施設を更新する。
- 複数箇所からの受電方法を見直し、受電システムを再構築する。
- 防災機能の充実を図るための施設を整備する。

<一時利用についての考え方>

- 一時的に行われる大規模なイベント等に対応できる埋設管や引込柱等を整備する。

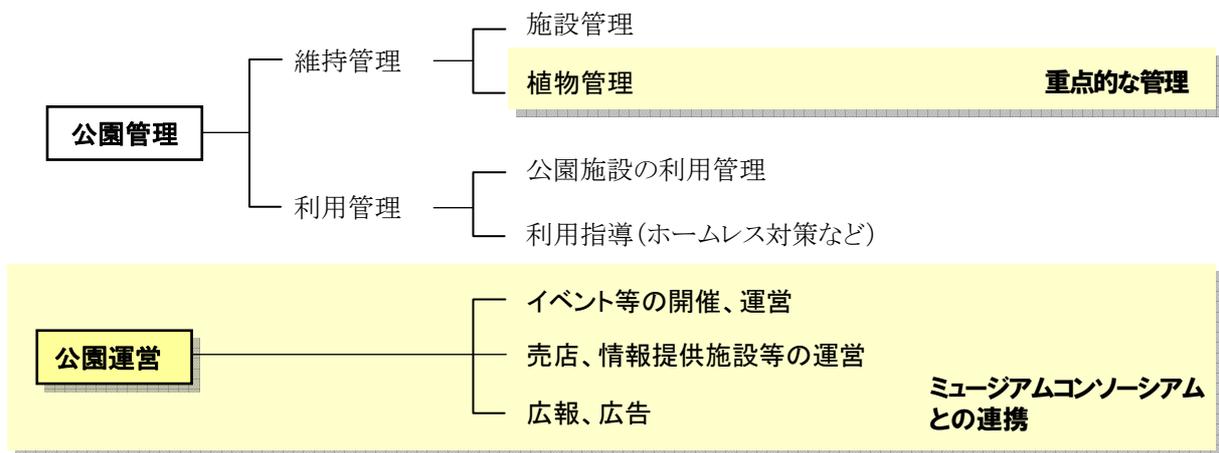
※特に右に示す利用形態に対応する
電気設備の充実を図る

- ・ 竹の台の広場を利用して行われる大規模なイベント
- ・ 桜ヶ丘や桜並木等におけるサクラのライトアップ
- ・ オープンカフェ 等

8. 管理運営計画

本再生計画を踏まえ、本公園に求められる管理運営内容を以下のとおりに整理する。

特に、『文化の森』の中核となる大広場における樹林については、明るい林を形成する観点から、整備後の重点的な植物管理を計画する。また、「上野公園ランドデザイン検討会報告書」にも示されたとおり、公園運営については、ミュージアムコンソーシアムとの連携を視野に入れた検討を進めることが望まれる。



図：本公園に求められる管理運営の考え方

公園の管理・運営については、特に以下のような点について配慮しながら、検討を進める。

○都民協働の推進

- ・ サクラの普及啓発、保全、更新にあたっては、都民や地元団体などで構成する『桜守の会』の協力を得ながら、都民との協働により、取り組む。

○コンソーシアムの設立準備と文化イベントの招致

- ・ 魅力的で多様な催しの企画調整、効果的な情報発信に取り組むため、既存の組織を母体とし、文化施設や大学、行政などで構成する共同事業体（ミュージアムコンソーシアム）の設立を支援する。
- ・ 東京都美術館のリニューアルオープンを記念したイベントの開催
- ・ 「文化の森」に相応しいイベントを開催するため、イベントに係る選考委員会の設置と使用基準の作成

○「文化の森」に相応しいサイン計画

- ・ 各文化施設による立看板（ポスター等）が林立し、雑然とした印象を与えているため、統一されたデザインによる立看板の設置
- ・ 各文化施設を象徴する誘導サインの設置 等

○オープンカフェの実現

- ・ 魅力的なテナントを導入するしくみづくり

○ホームレス対策と公園管理の適正化の推進

- ・ ホームレス対策の推進や違法屋台等の排除による公園管理の適正化を推進

9. 事業スケジュール

本再生計画に基づく事業は、主にエリア毎に段階的な整備を実施する。事業スケジュールは、以下の予定である。

エリア	年度						
	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27
① 竹の台・文化施設エリア							
② JR 上野駅公園口周辺エリア							
③ 寛永寺など歴史資源エリア							
④ 桜ヶ丘エリア							
⑤ 袴腰エリア							
⑥ 不忍池エリア							

